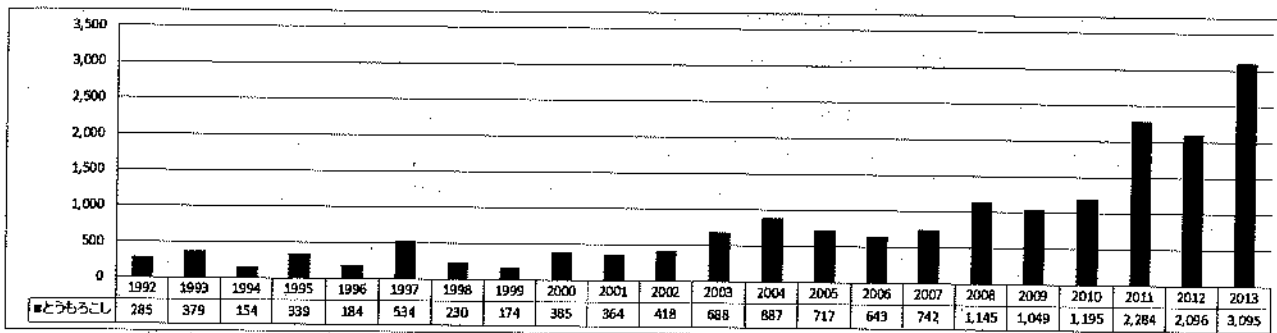


平成 26 年度 海外農業・貿易事業調査分析事業
 (NIS 諸国 (旧ソ連新独立国家) の調査・分析)
 【国別概況：修正・変更箇所】

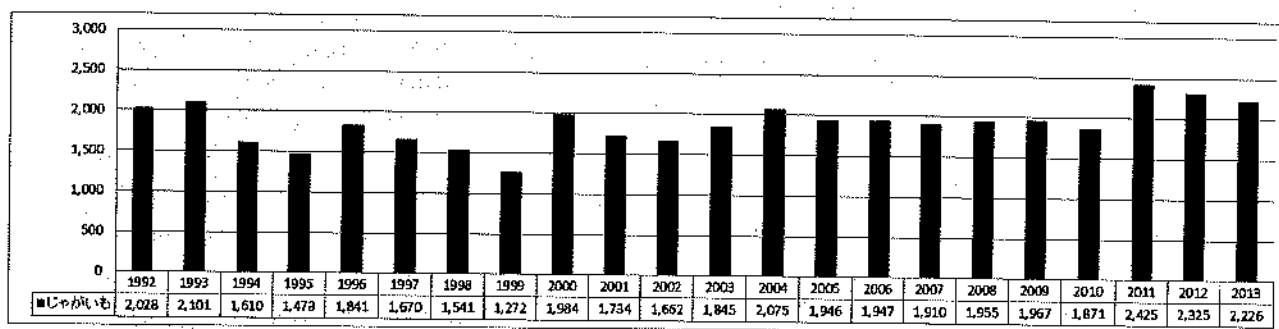
国	頁		図タイトル	修正・変更箇所
ウクライナ	90 頁	下	「ヒマワリの種の生産量の推移 (万トン)」	2013 年数値「111 (万トン)」→「1,105 (万トン)」
ベラルーシ	110 頁	上	「トウモロコシの生産量の推移 (万トン)」	2011 年数値「121. (万トン)」→「121.3 (万トン)」 2013 年数値「111. (万トン)」→「112.0 (万トン)」
		中	「ジャガイモの生産量の推移 (万トン)」	1993 年数値「1,16 (万トン)」→「1,164 (万トン)」 1996 年数値「1,08 (万トン)」→「1,088 (万トン)」
	113 頁	上	「馬肉の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2012 年数値「1,40 (トン)」→「1.0 (千トン)」 2013 年データ追加「0.9 (千トン)」
		中	「鶏卵の生産量の推移 (百万個)」	単位「(百万個)」→「(億個)」 2010 年数値「3,536 (百万個)」→「35.0 (億個)」 2011 年数値「3,656 (百万個)」→「36.2 (億個)」 2012 年数値「3,846 (百万個)」→「37.4 (億個)」 2013 年データ追加「39.2 (億個)」
		下	「牛乳の生産量の推移 (千トン)」	単位「(千トン)」→「(万トン)」 2013 年データ追加「663 (万トン)」
	114 頁	上	「蜂蜜の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2013 年データ追加「2.75 (千トン)」
カザフスタン	130 頁	上	「鶏肉の生産量の推移 (千トン)」	2012 年数値「101 (千トン)」→「123 (千トン)」 2013 年データ追加「136 (千トン)」
		中	「ヤギ肉の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2011 年数値「21,3 (トン)」→「19.9 (千トン)」 2012 年数値「21,2 (トン)」→「20.8 (千トン)」 2013 年データ追加「21.0 (千トン)」
		下	「馬肉の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2012 年数値「75,2 (トン)」→「85.1 (千トン)」 2013 年データ追加「89.4 (千トン)」
	131 頁	上	「鶏卵の生産量の推移 (百万個)」	単位「(百万個)」→「(億個)」 2013 年データ追加「38.8 (億個)」
		中	「羊肉の生産量の推移 (千トン)」	2011 年数値「128 (千トン)」→「130 (千トン)」 2012 年数値「128 (千トン)」→「133 (千トン)」 2013 年データ追加「135 (千トン)」
		下	「牛乳の生産量の推移 (千トン)」	単位「(千トン)」→「(万トン)」 1998 年数値「3,32 (千トン)」→「336 (万トン)」 2012 年数値「4,83 (千トン)」→「482 (万トン)」 2013 年データ追加「489 (万トン)」
	132 頁	上	「蜂蜜の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2011 年数値「1,20 (トン)」→「1.40 (千トン)」 2012 年数値「1,25 (トン)」→「1.35 (千トン)」 2013 年データ追加「1.70 (千トン)」
ウズベキスタン	152 頁	上	「テンサイの生産量の推移 (万トン)」	「0」→「―」(データなし) *2003 年以降データなし
		中	「ヒマワリの種の生産量の推移 (万トン)」	2010 年数値「1.2 (万トン)」→「1.8 (万トン)」 2011 年数値「1.2 (万トン)」→「2.4 (万トン)」 2012 年数値「1.2 (万トン)」→「3.6 (万トン)」 2013 年数値「1.2 (万トン)」→「3.9 (万トン)」
	153 頁	上	「綿花の生産量の推移 (万トン)」	「綿実」(Cottonseed) データを使用 →「綿花」(Seed cotton) のデータに修正

国	頁		図タイトル	修正箇所
ウズベキスタン	153 頁	下	「牛肉の生産量の推移 (千トン)」	2012 年数値「780 (千トン)」→「762 (千トン)」 2013 年データ追加「813 (千トン)」
	154 頁	上	「豚肉の生産量の推移 (千トン)」	2012 年数値「25 (千トン)」→「24 (千トン)」 2013 年データ追加「26 (千トン)」
		中	「鶏肉の生産量の推移 (千トン)」	2012 年数値「32 (千トン)」→「30 (千トン)」 2013 年データ追加「33 (千トン)」
		下	「馬肉の生産量の推移 (トン)」	「0」→「-」(データなし) *2002 年以前データなし 2012 年数値「2,60 (トン)」→「2,500 (トン)」 2013 年データ追加「2,700 (トン)」
	160 頁		「農産物輸出入総額の推移 (百万米ドル)」	輸入総額データが別国のデータのため修正。あわせて説明文章を以下のとおり修正。 「ウズベキスタンではその気候特性により農業生産が行える土地が限られ、農作物に関して 2008 年以降は輸入額が輸出額に近づいている。輸出額がぐっと減った 2008 年、2009 年には、輸入額がわずかに上回っている。生活必需品である農産品目の生産量の多くが国内消費に回されているため、国内の農業生産がこれまで主流だった綿花栽培から穀物栽培へとシフトし、輸出に大きな部分を占めていた綿布の輸出量は大きく減少している。」
トルクメニスタン	172 頁	下	「テンサイの生産量の推移 (万トン)」	「0」→「-」(データなし) *1998 年以前データなし
	174 頁	上	「羊肉の生産量の推移 (千トン)」	2013 年データ追加「145 (千トン)」
		中	「鶏肉の生産量の推移 (千トン)」	2013 年データ追加「21.3 (千トン)」
		下	「ヤギ肉の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2013 年データ追加「10.1 (千トン)」
	175 頁	中	「牛乳の生産量の推移 (千トン)」	年号表記の修正、「(千トン)」→「(万トン)」 2006 年数値「1,197 (千トン)」→「197 (万トン)」 2013 年データ追加「220 (万トン)」
		下	「蜂蜜の生産量の推移 (トン)」	単位「(トン)」→「(千トン)」 2009 年数値「717 (トン)」→「0.80 (千トン)」 2013 年データ追加「0.81 (千トン)」
タジキスタン	191 頁	上	「大豆の生産量の推移 (万トン)」	単位「(万トン)」→「(トン)」
		中	「なたねの生産量の推移 (万トン)」	単位「(万トン)」→「(トン)」
		下	「綿花の生産量の推移 (万トン)」	「綿実」(Cottonseed) データを使用 →「綿花」(Seed cotton) のデータに修正
	192 頁		文章 2 行目:「しかし近年、穀物生産へのシフトにより、飼料の生産が減少したため、それに伴い長いスパンでみると畜産物の生産量も減少傾向にある。家畜の疫病なども生産を減らしている大きな要因である。しかし 2013 年の牛の…」	文章 2 行目:「近年、穀物生産へのシフトにより、飼料の生産が減少したため、それに伴い長いスパンでみると、牛肉のように生産量が減少傾向のものもある。しかし 2013 年の牛の…」
		上	「牛肉の生産量の推移 (千トン)」	差し替え
		下	「豚肉の生産量の推移 (千トン)」	差し替え
	193 頁	上	「羊肉の生産量の推移 (千トン)」	差し替え
		中	「鶏肉の生産量の推移 (千トン)」	差し替え
		下	「ヤギ肉の生産量の推移 (トン)」	削除 (データなし)
	194 頁	上	「馬肉の生産量の推移 (トン)」	削除 (データなし)
		中	「鶏卵の生産量の推移 (百万個)」	差し替え

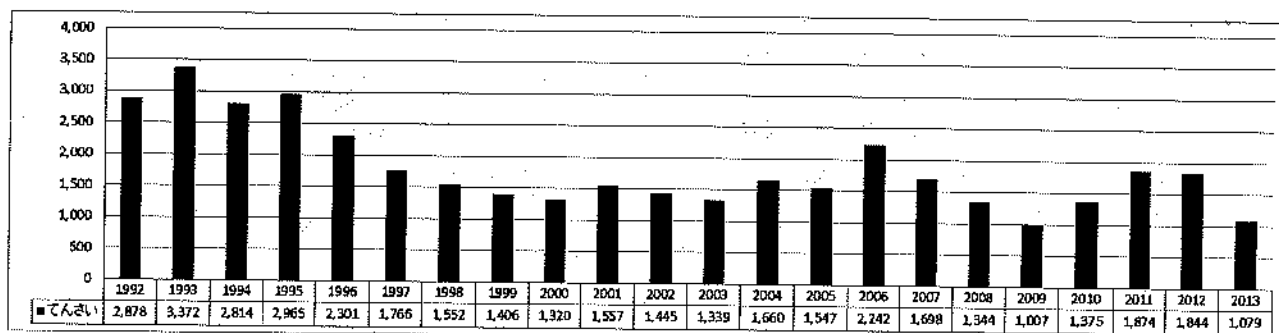
国	頁		図タイトル	修正箇所
タジキスタン	194 頁	下	「牛乳の生産量の推移（千トン）」	差し替え
	195 頁	上	「蜂蜜の生産量の推移（トン）」	差し替え；単位「（トン）」→「（千トン）」
キルギス	217 頁	下	「大豆の生産量の推移（万トン）」	単位違い「万トン」→「トン」
	220 頁	上	「ヤギ肉の生産量の推移（トン）」	単位「（トン）」→「（千トン）」 2013 年データ追加「8.10（千トン）」
		中	「馬肉の生産量の推移（トン）」	単位「（トン）」→「（千トン）」 2013 年データ追加「21.8 千トン」
		下	「鶏卵の生産量の推移（百万個）」	年号表記の修正 2013 年データ追加「422（百万個）」
	221 頁	上	「牛乳の生産量の推移（千トン）」	単位「（千トン）」→「（万トン）」 2013 年データ追加「137（万トン）」
		中	「蜂蜜の生産量の推移（トン）」	単位「（トン）」→「（千トン）」 2013 年データ追加「1.61（千トン）」
	229 頁		「農産物輸出入総額の推移（百万米ドル）」	輸入総額データが別国データのため修正。あわせて説明文章を以下のとおり修正。 「ソ連崩壊後、キルギスの農産物の輸出は 1996 年をピークに減少に転じ、2003 年以降また増加傾向となった。1994 年から 2004 年まで輸出が輸入を上回っていたが、2005 年以降輸入が大幅に伸び、2011 年の輸入額は約 7 億 108 万米ドル、対前年比 27.7% 増であった。」
アゼルバイジャン	243 頁	上	「鶏卵の生産量の推移（百万個）」	単位「（百万個）」→「（億個）」 2013 年データ追加「14.0（億個）」
		中	「牛乳の生産量の推移（千トン）」	単位「（千トン）」→「（万トン）」 2013 年データ追加「178（万トン）」
		下	「蜂蜜の生産量の推移（トン）」	単位「（トン）」→「（千トン）」 2013 年データ追加「2.46（千トン）」
アルメニア	257 頁	上	「ブドウの生産量の推移（万トン）」	年号表記の修正
		下	「スイカの生産量の推移（万トン）」	年号表記の修正
	259 頁	上	「羊肉の生産量の推移（千トン）」	データテーブルの数値の標記が百トン→千トンに修正 2013 年データ追加「9.0（千トン）」
		中	「鶏肉の生産量の推移（千トン）」	2012 年数値「7（千トン）」→8.3（千トン）」 2013 年データ追加「8.2（千トン）」
		下	「ヤギ肉の生産量の推移（トン）」	「0」→「－」（データなし）*1994 年以降データなし
ジョージア	277 頁	上	「テンサイの生産量の推移（万トン）」	単位違い「万トン」→「千トン」
		中	「ヒマワリの生産量の推移（万トン）」	データテーブルの数値の標記がトン→万トンに修正
		下	「大豆の生産量の推移（万トン）」	データテーブルの数値の標記がトン→千トンに修正 1998 年数値「1.04（万トン）」→「1.45（千トン）」
	279 頁	上	「鶏肉の生産量の推移（千トン）」	2013 年データ追加「10.1（千トン）」
		中	「ヤギ肉の生産量の推移（トン）」	「0」→「－」（データなし）*2002 年以前データなし 2013 年データ追加「20（トン）」
		下	「馬肉の生産量の推移（トン）」	「0」→「－」（データなし）*1997 年以前データなし 2013 年データ追加「90（トン）」
	280 頁	上	「鶏卵の生産量の推移（百万個）」	2013 年データ追加「490（百万個）」
		中	「牛乳の生産量の推移（千トン）」	2008 年数値「639（千トン）」→「652（千トン）」 2009 年数値「545（千トン）」→「556（千トン）」 2010 年数値「581（千トン）」→「593（千トン）」 2011 年数値「576（千トン）」→「588（千トン）」 2013 年データ追加「608（千トン）」
		下	「蜂蜜の生産量の推移（トン）」	単位「（トン）」→「（千トン）」 2013 年データ追加「3.90（千トン）」



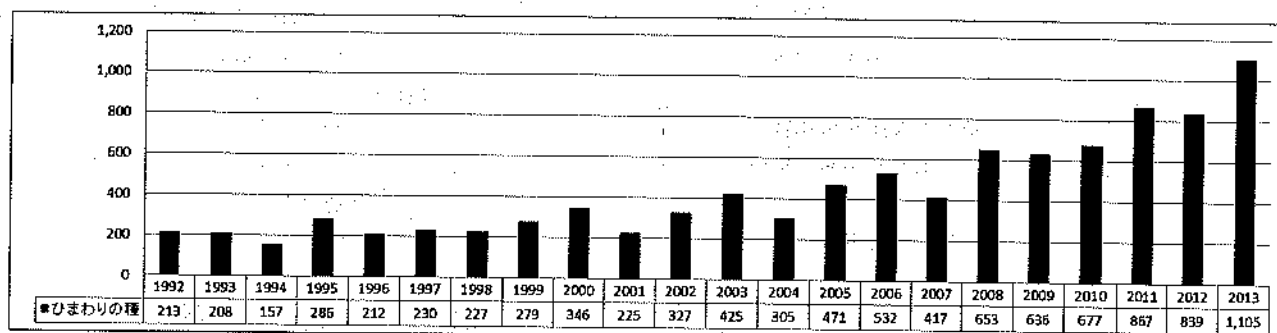
トウモロコシの生産量の推移(万トン)



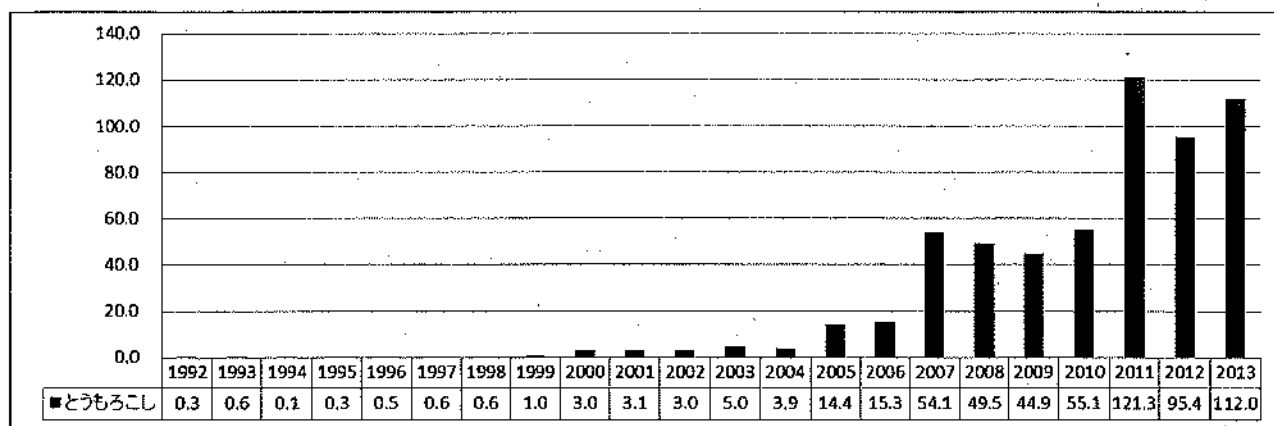
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



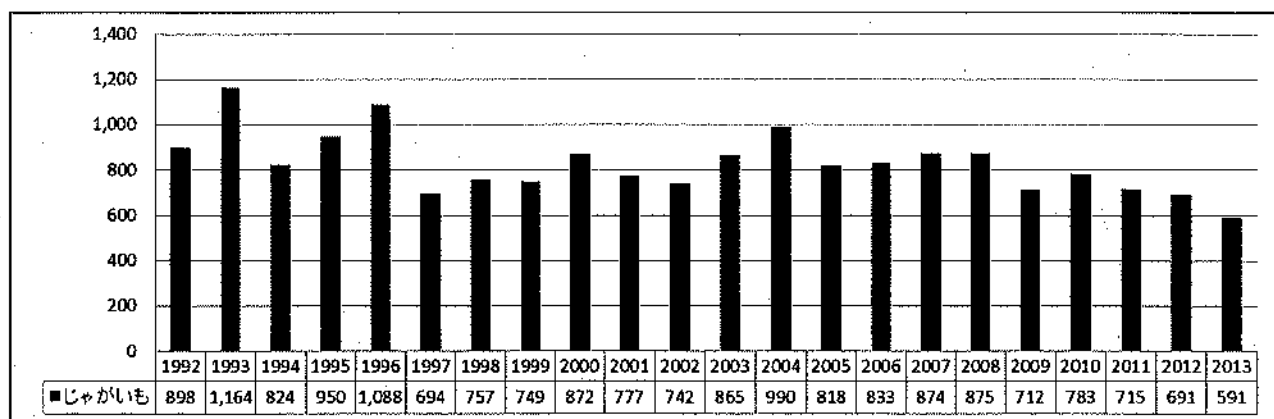
テンサイの生産量の推移(万トン)



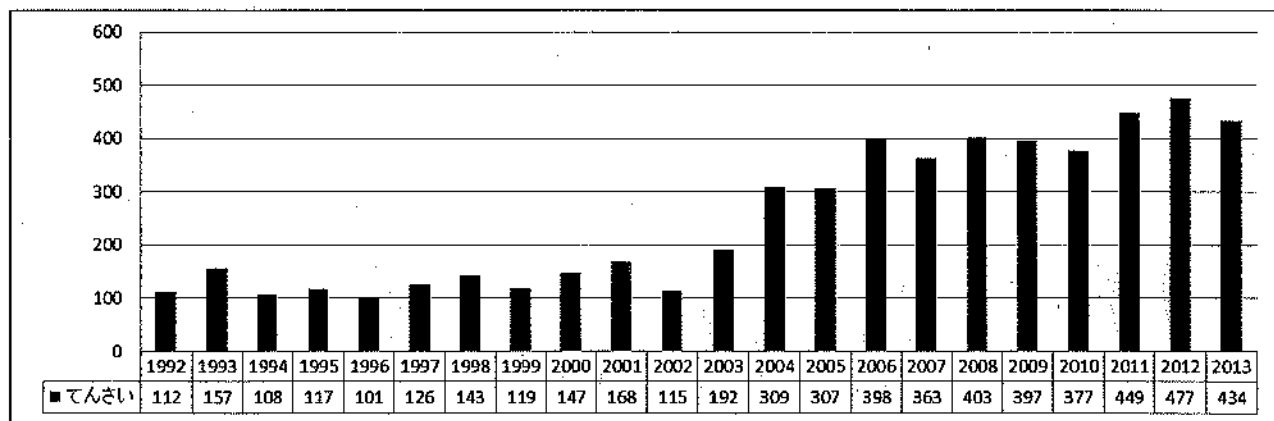
ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



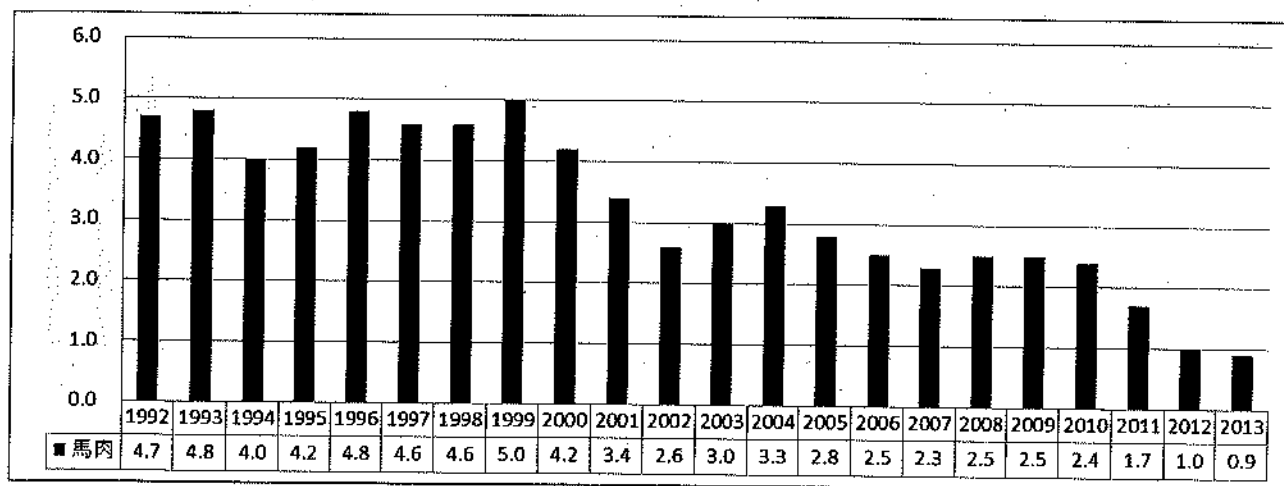
トウモロコシの生産量の推移(万トン)



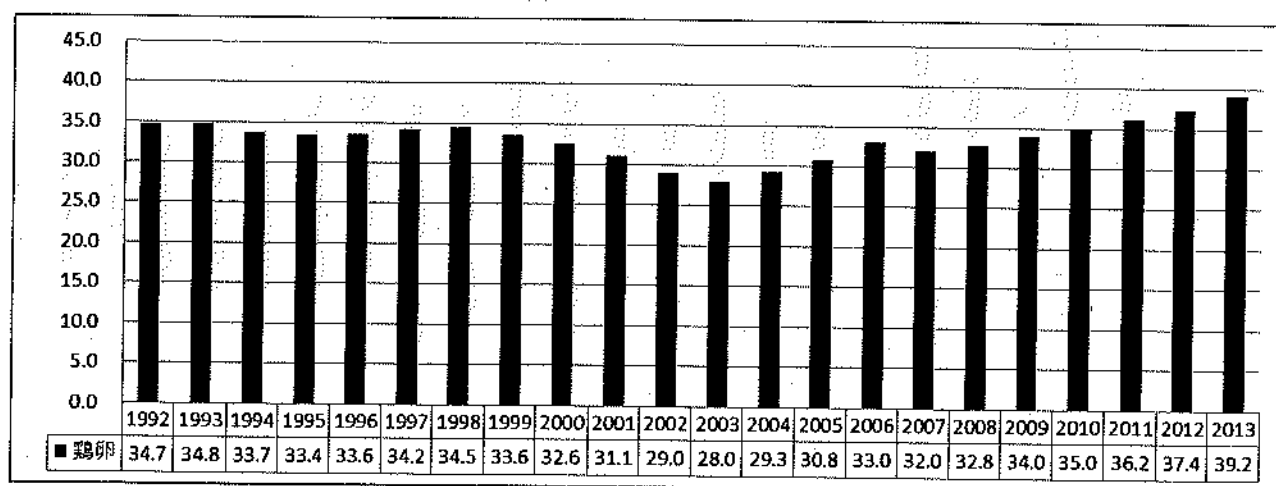
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



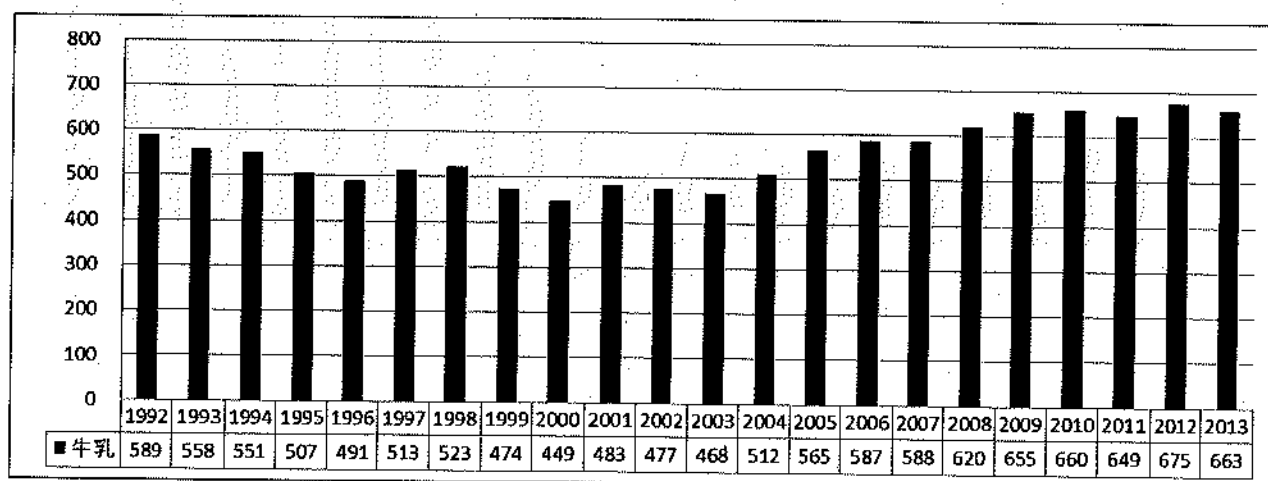
テンサイの生産量の推移(万トン)



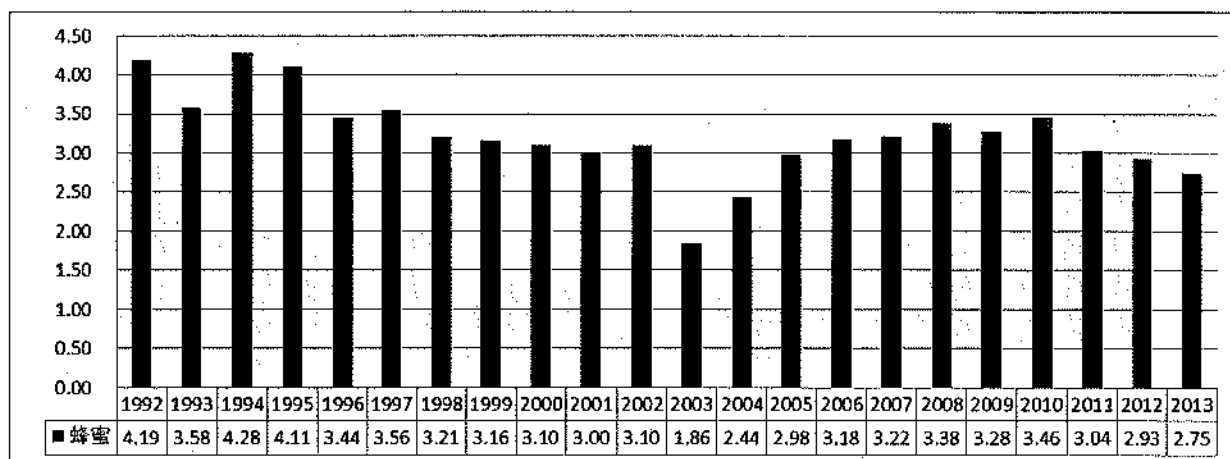
馬肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(億個)



牛乳の生産量の推移(万トン)

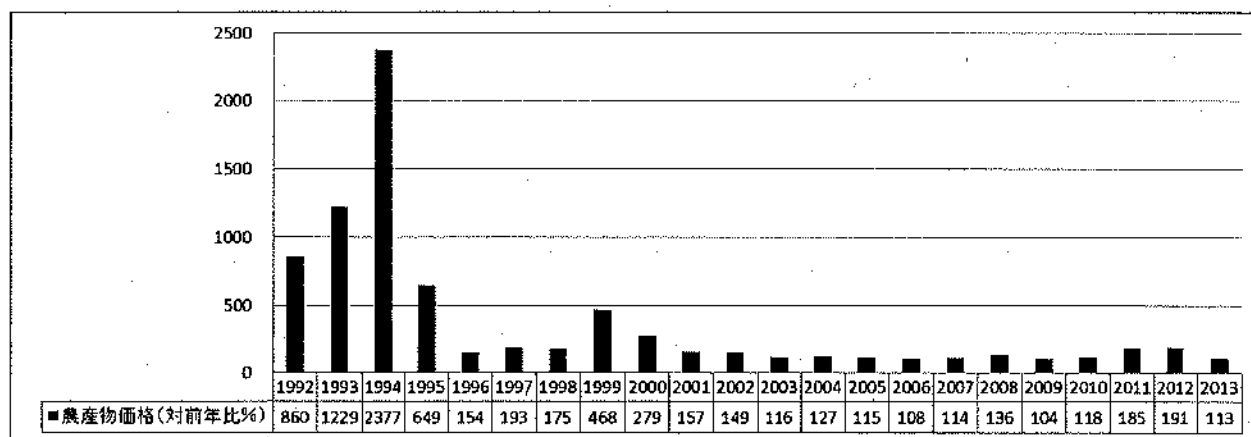


蜂蜜の生産量の推移(千トン)

※以上 7 点、出所：FAOSTAT

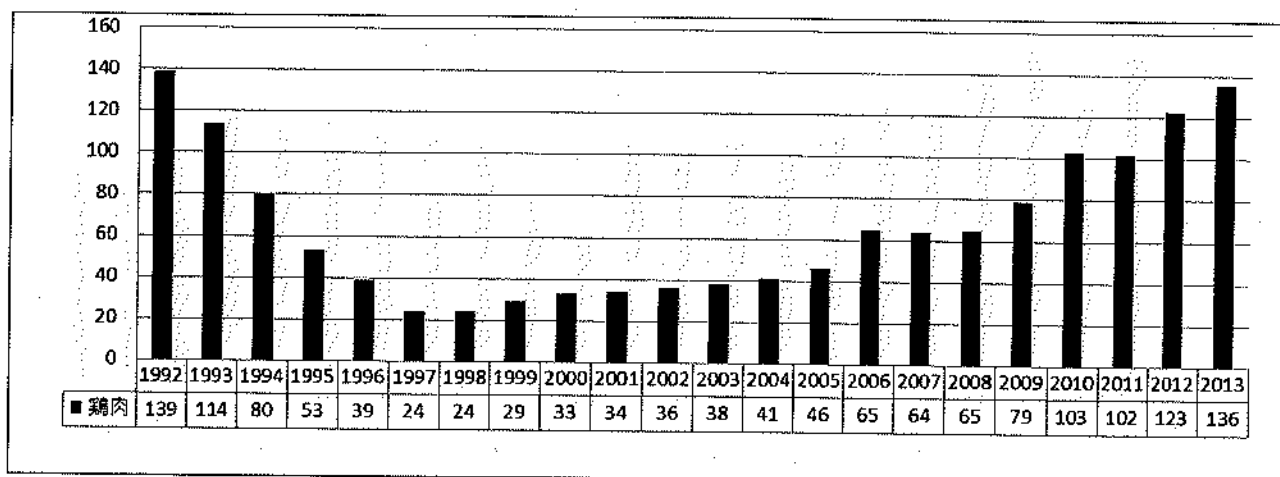
5) 主要農林水産品の価格

ソビエト崩壊後、経済が混乱したことにより農作物の価格は高騰した。しかし 1994 年の大統領選挙でルカシェンコが当選し、ロシア連邦との統合を目指す政策を開始すると、1995 年以降は、安定傾向にある。ベラルーシではコルホーズ、ソフホーズベースの生産体制により、政府が農作物の固定価格により買付けを行い、国家価格により市場に提供しているため、概して低価格に抑えられている。しかしロシアと比較した場合、買付け価格はロシアよりも著しく低いにもかかわらず、既製食品の市場価格はロシアと実質的に同じである。

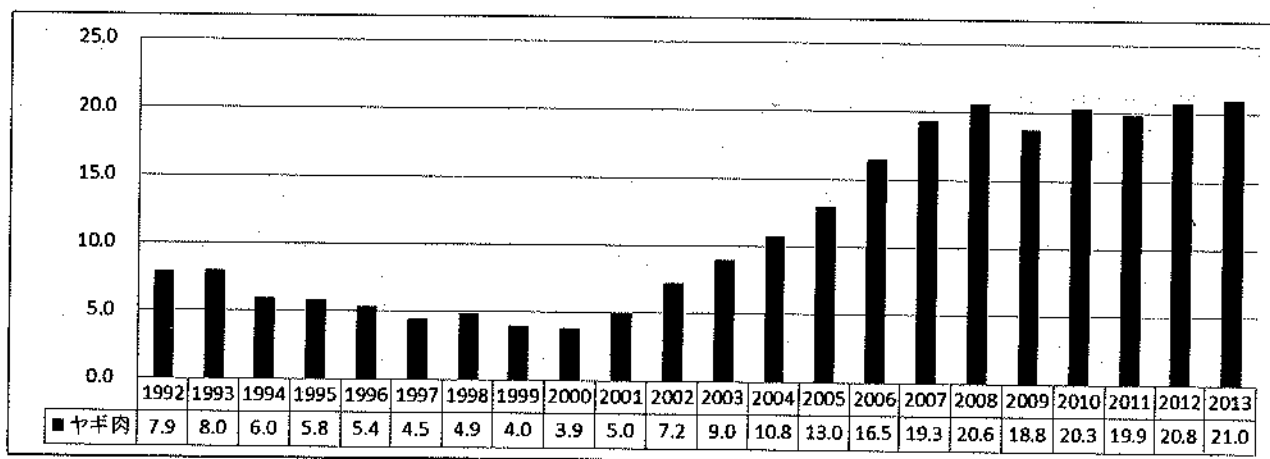


出所：CIS 統計委員会

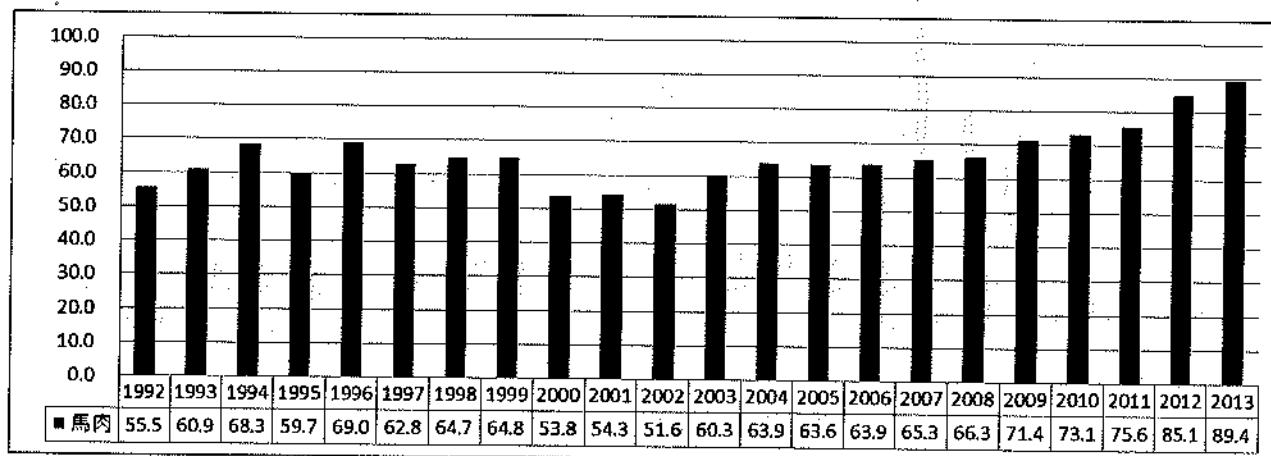
農産物価格の前年比の推移(%)



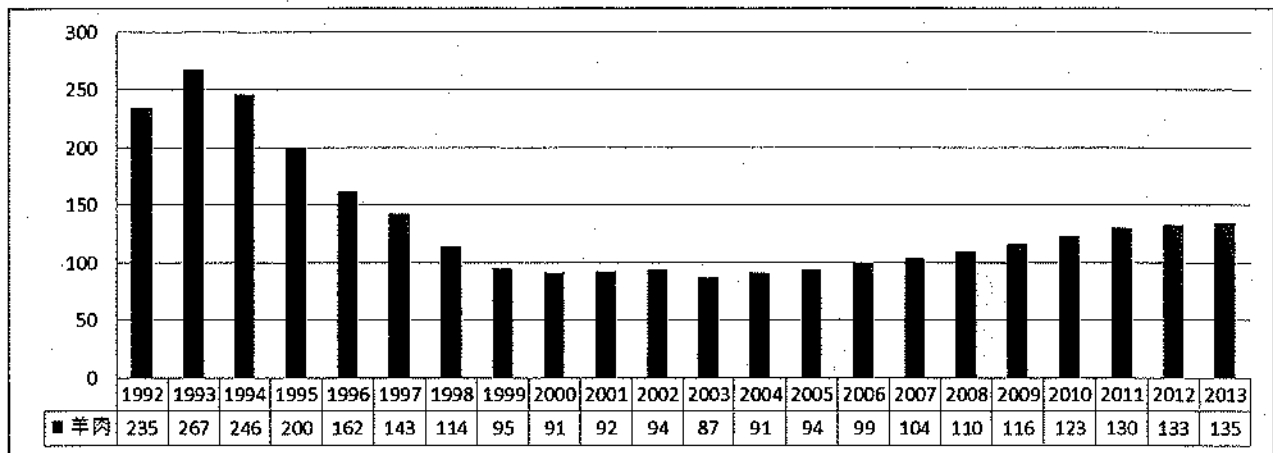
鶏肉の生産量の推移(千トン)



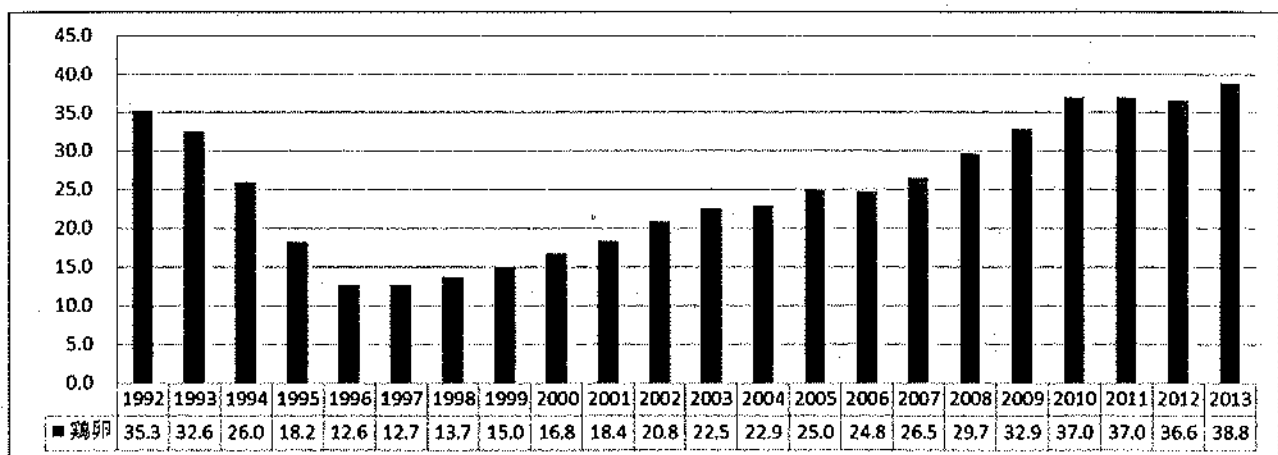
ヤギ肉の生産量の推移(千トン)



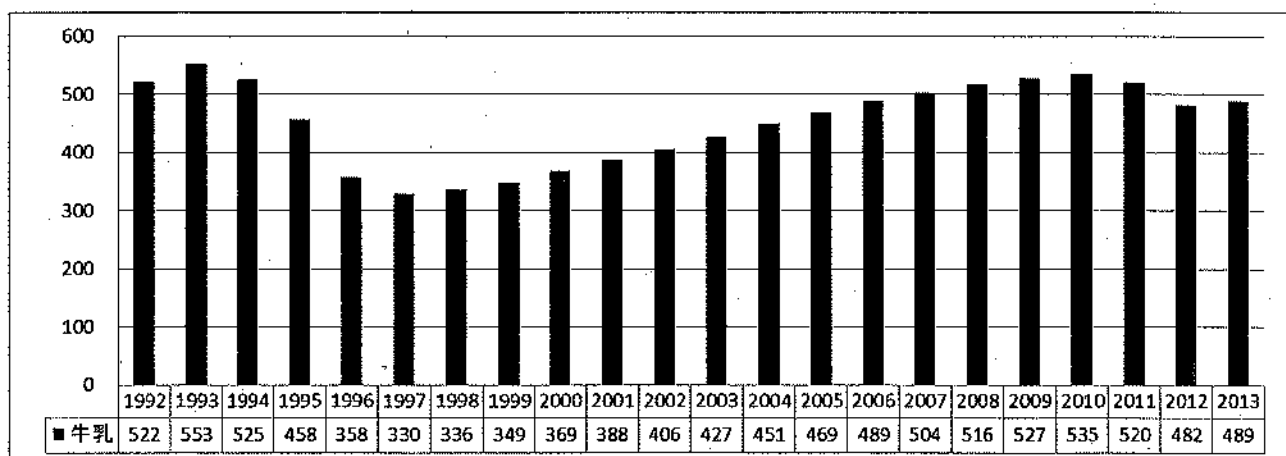
馬肉の生産量の推移(千トン)



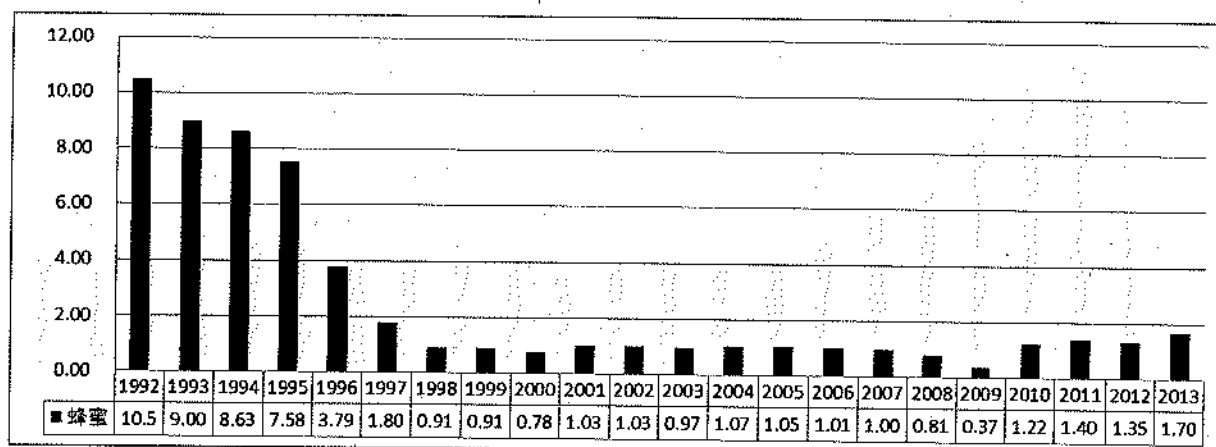
羊肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(億個)



牛乳の生産量の推移(万トン)



蜂蜜の生産量の推移(千トン)

※以上9点、出所：FAOSTAT

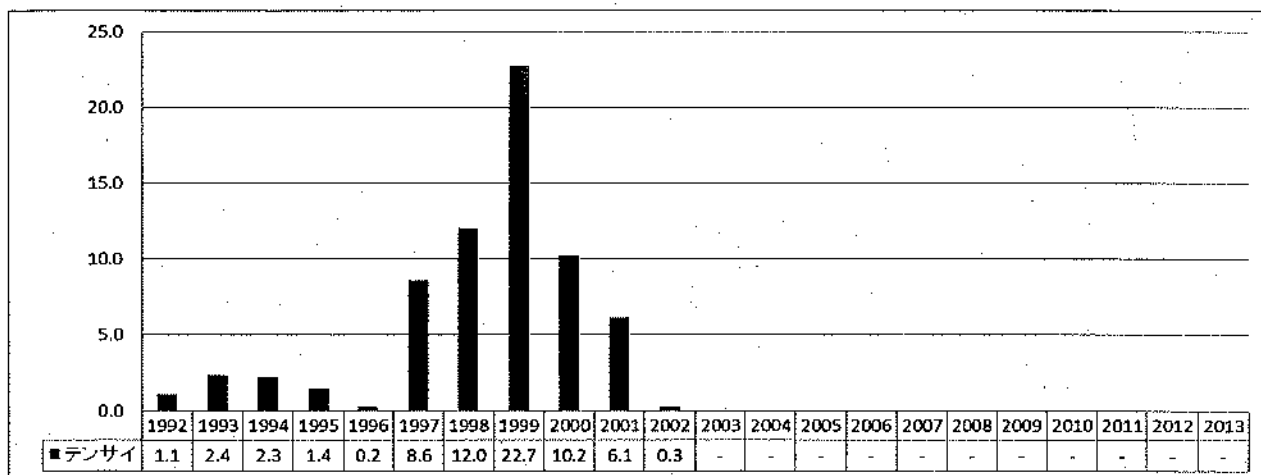
5) 農業経営・生産組織の動向

カザフスタン北部の穀倉地帯では、農業向けの資源はソフホーズなどの社会主義農業企業が独占してきたが、体制転換後の私有化や土地改革などによってその保有構造が大きく変化した。1990年代半ばから、農業企業の資産が経営指導者・幹部といった少数の農村エリートに集積していくという所有構造の大きな変化のプロセスが始まり、経営者が事実上のオーナーとなって支配する有限会社などの会社農業が多くなった。一方、旧ソフホーズ時代からの巨大な農業組織が支部農場レベルのサイズに分割される傾向も顕著になった。また土地や資産の一部が個人に配分されて「農民経営(フェルメル)」と呼ばれる個人経営が生まれた。

農業企業をとりまく経済条件の悪化、支払い困難な債務を抱えた大量の赤字経営の発生、それらの赤字経営を破産させようという政策が実行された。カザフスタンは、CIS諸国のなかでも極めて多くの企業が「破産」宣告を受け、その資産が実際に売却・処分された国である。

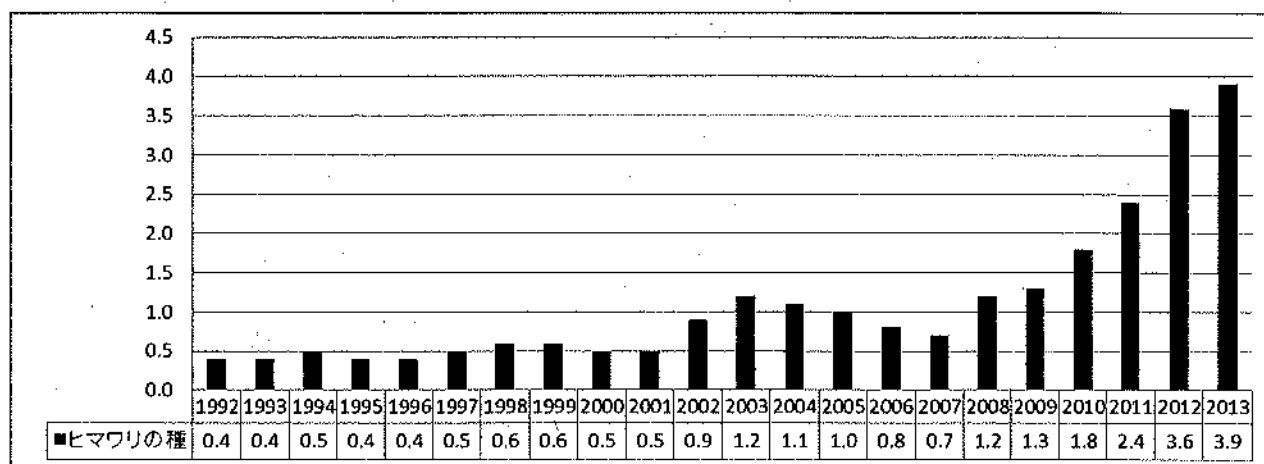
ソ連崩壊後カザフスタンでは、農地の利用権が相続、売買、賃貸借の対象として比較的自由に引きされてきた。カザフスタンでは穀物商社などの外部投資家による農業企業の買収・支配が一部地域で活発に行われ、垂直インテグレーションが進んだ。

以上のような改革、構造変化のもとに、カザフスタンの農業セクターは以下の形態の生産組織が並存している。

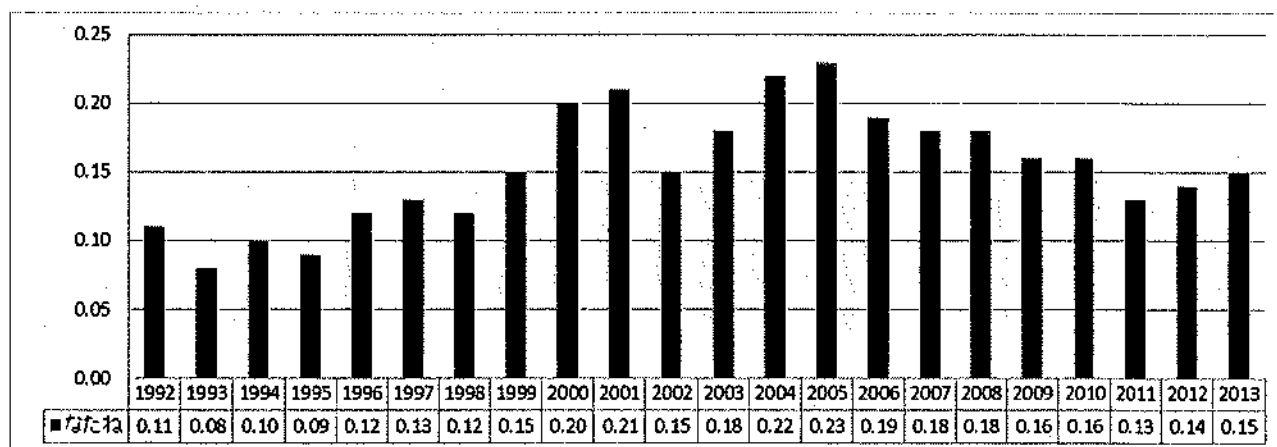


* 2003 年以降データなし

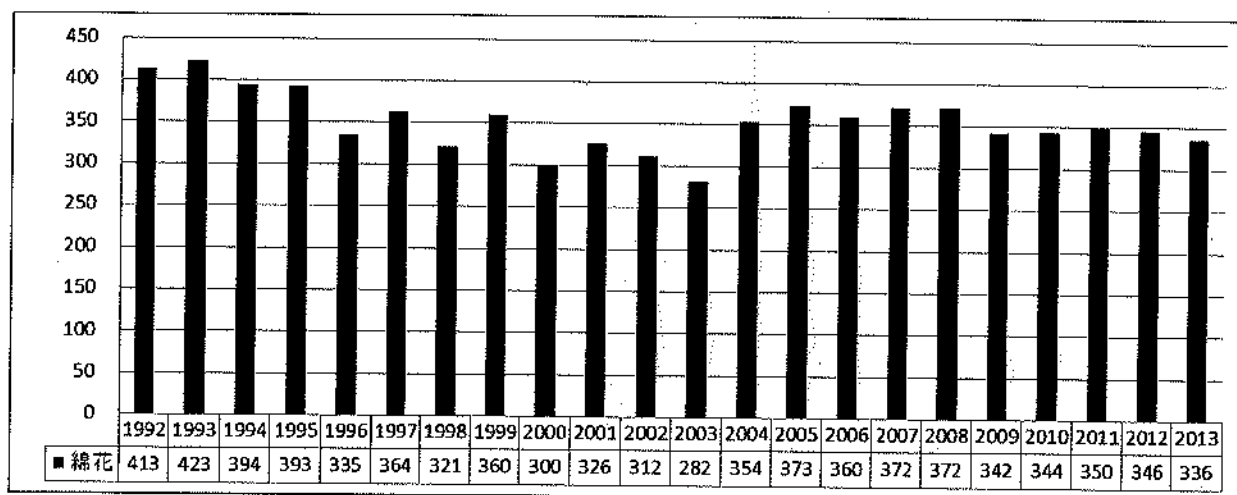
テンサイの生産量の推移(万トン)



ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



なたねの生産量の推移(万トン)

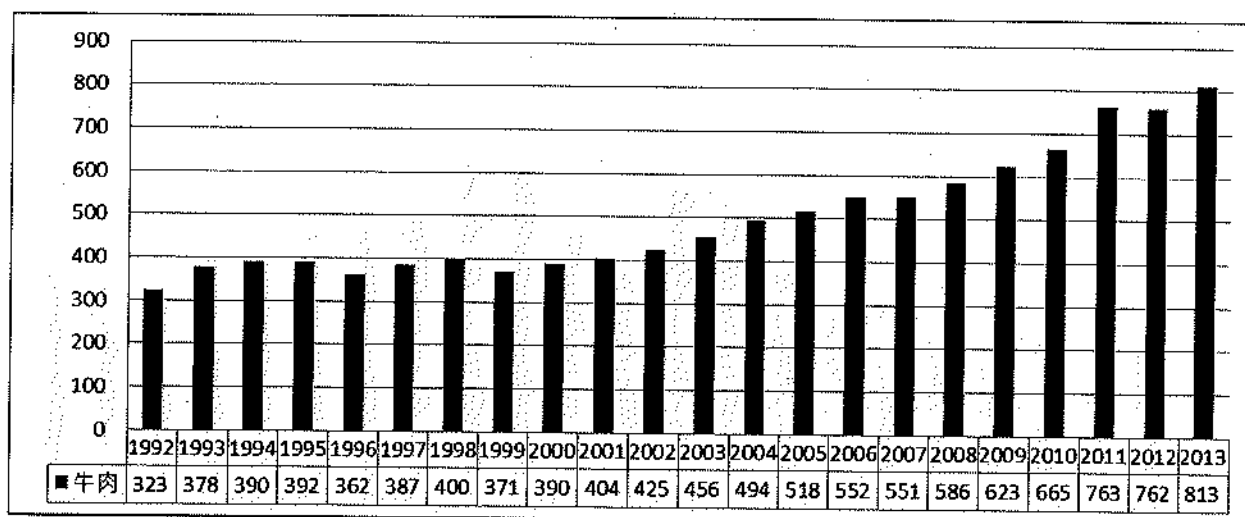


綿花の生産量の推移(万トン)

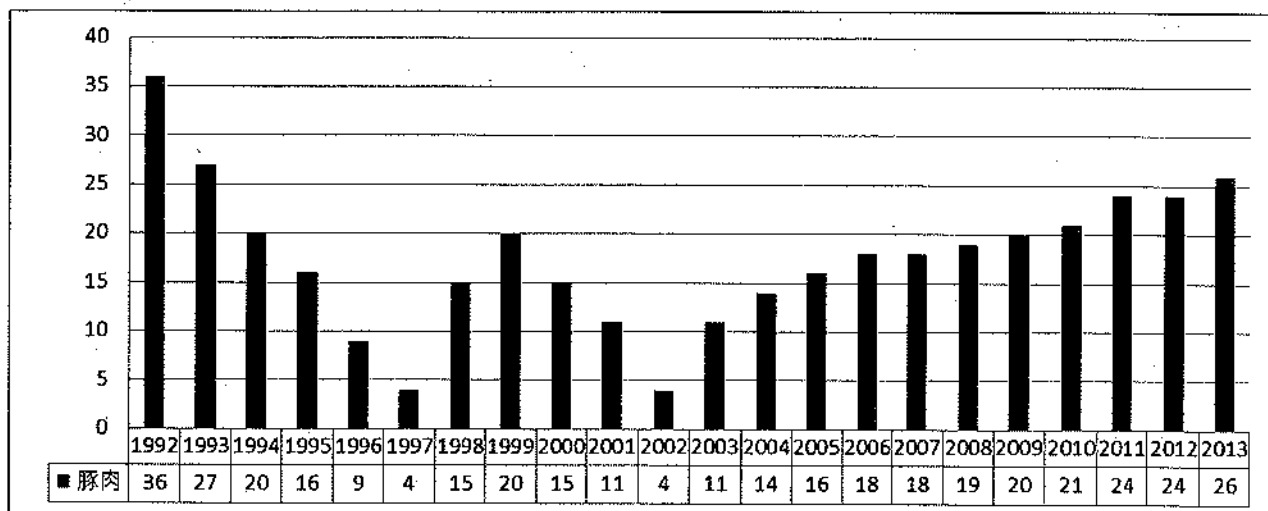
※以上 8 点、出所：FAOSTAT

②主要畜産物の生産動向

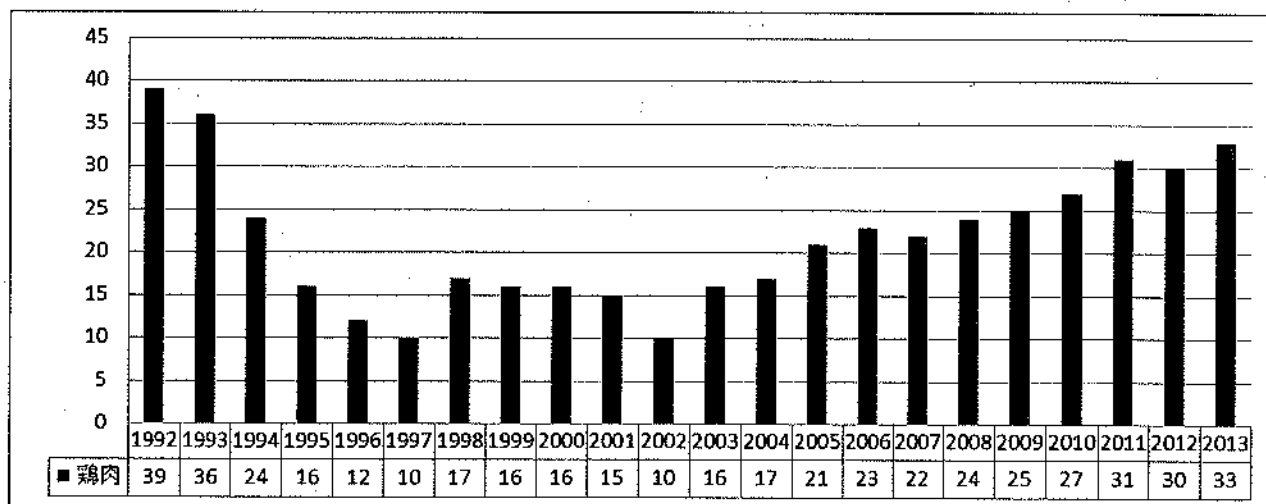
ウズベキスタンでは、伝統的な羊の飼育以外にも、牛、豚、鶏も食肉用として飼育が行われている。羊は毛皮の生産のために飼育されていたが、その輸出量は 1990 年から 2004 年の間に半減している。また年間 500 万ℓの牛乳も生産している。現在、フェルメル経営農場において外国産品種の人工授精による家畜の品種改良が積極的に行われており、牛乳の生産量は近年大きく増加している。鶏卵の生産も年々増加しており、2012 年の生産量は約 39 億個と、独立直後の 2 倍以上となっている。一方、旧ソ連時代に盛んに生産されていた蜂蜜は、1992 に比べ 20 年間で半分以下の生産量となっている。



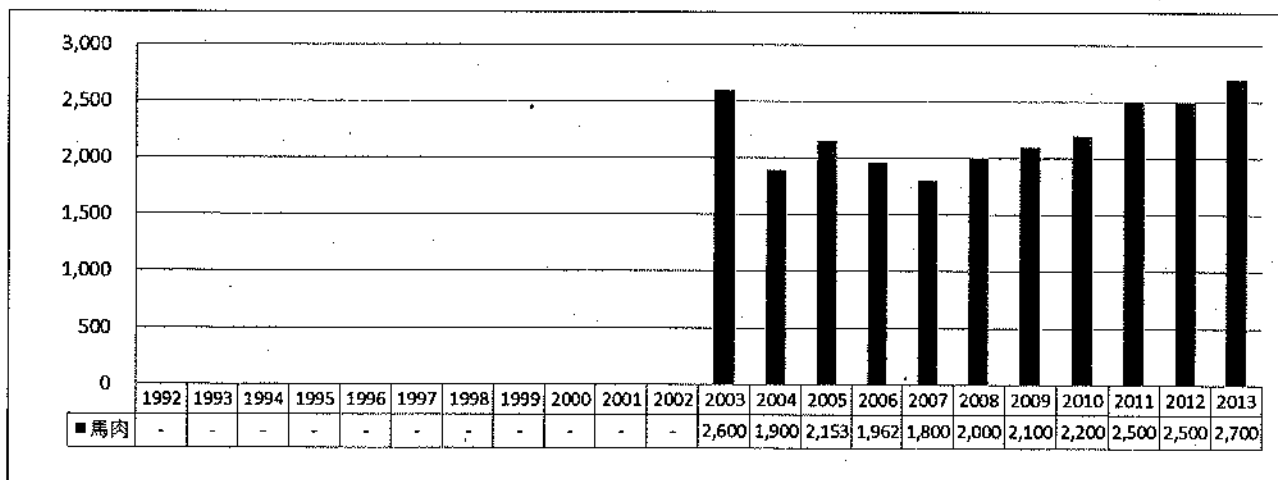
牛肉の生産量の推移(千トン)



豚肉の生産量の推移(千トン)



鶏肉の生産量の推移(千トン)



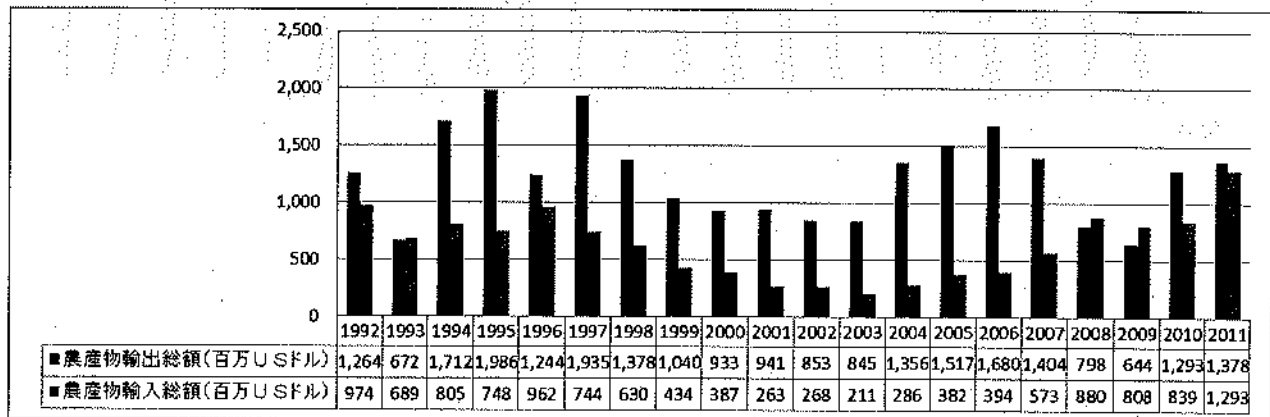
* 2002 年以前はデータなし

馬肉の生産量の推移(トン)

4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

ウズベキスタンではその気候特性により農業生産が行える土地が限られ、農作物に関して 2008 年以降は輸入額が輸出額に近づいている。輸出額が大幅に減った 2008 年、2009 年には、輸入額がわずかに上回っている。生活必需品である農産品目の生産量の多くが国内消費に回されているため、国内の農業生産がこれまで主流だった綿花栽培から穀物栽培へとシフトし、輸出に大きな部分を占めていた綿布の輸出量は大きく減少している。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

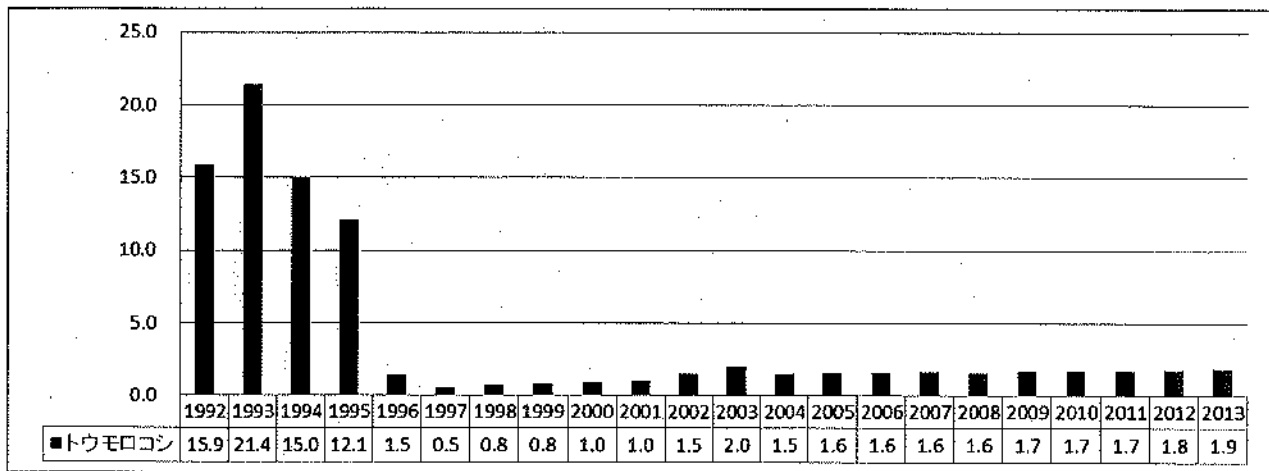
(2) 輸出

農産品の輸出では、ソ連時代から生産量の多い綿布が中心である。綿布の輸出高は 2006 年時点で 70～80 万トンでありし、全輸出額の 17%を占めている。しかし近年、対欧州を中心にそれ以外の農産物の輸出も増えている。2015 年には EU 加盟諸国に 1 億ユーロ超の農作物などを供給することになっている。輸出されるのは果物、ウリ科植物、ブドウ、ドライフルーツ、ジュースやジャムなどの加工食品である。また 2014 年以降、ロシアがウクライナ問題による西側の制裁に対する措置として、欧州諸国からの農作物の輸入を禁止しているため、その代替策としてウズベキスタンから輸入しているため、現在、ロシア向けの農作物の輸出量が大きく増大している。

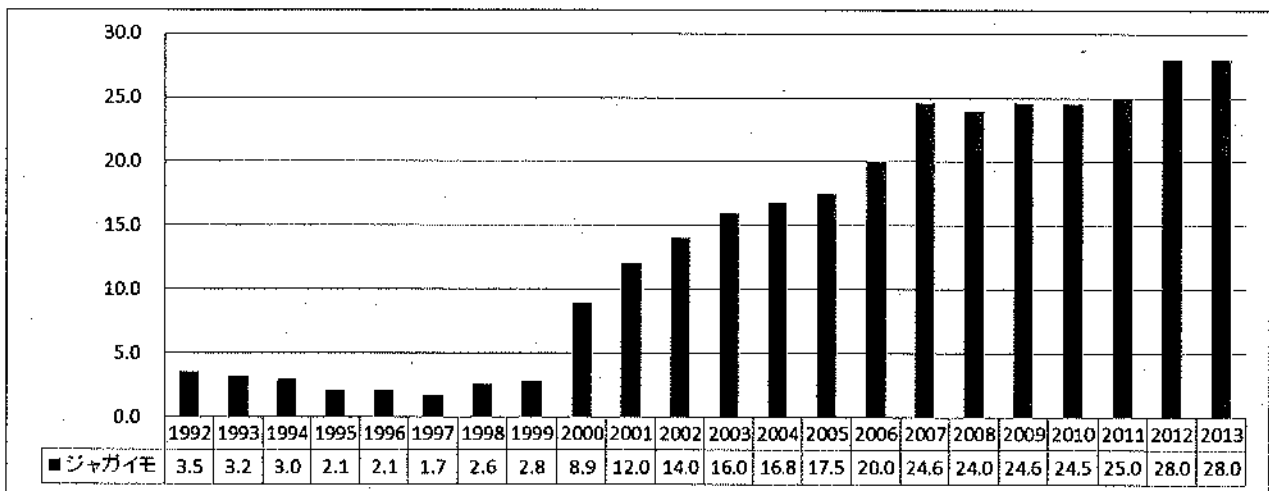
輸出農産物上位 5 品目(2011 年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
綿布	646	46.9
ブドウ	132	9.6
トマト	61	4.4
桃とネクタリン	39	2.8
小麦	35	2.6
上位5品目計	913	66.2
上記以外農産物計	465	33.8
農産物総額	1,378	100.0

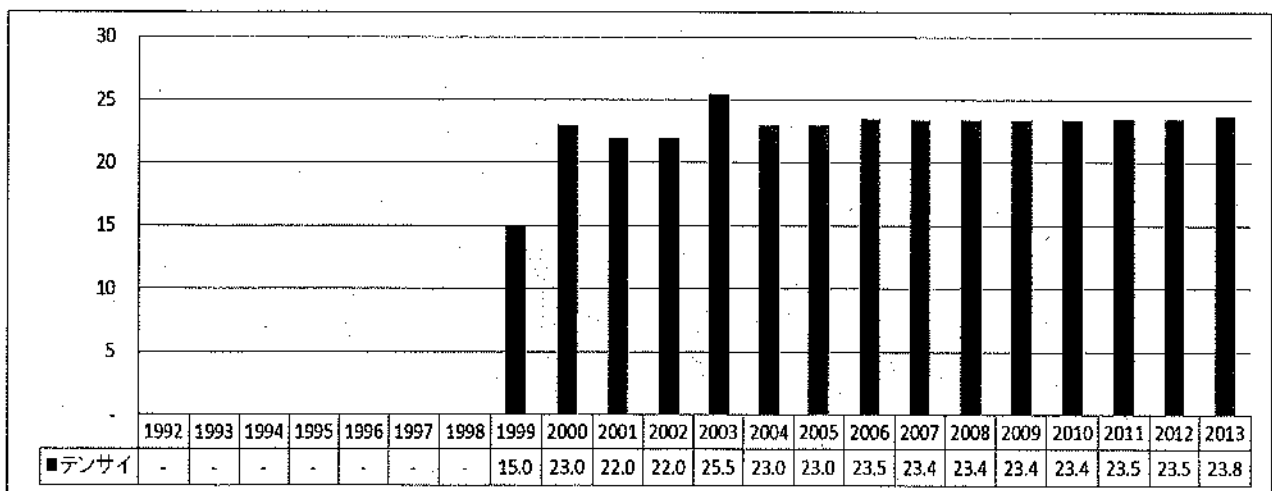
出所：FAOSTAT



トウモロコシの生産量の推移(万トン)



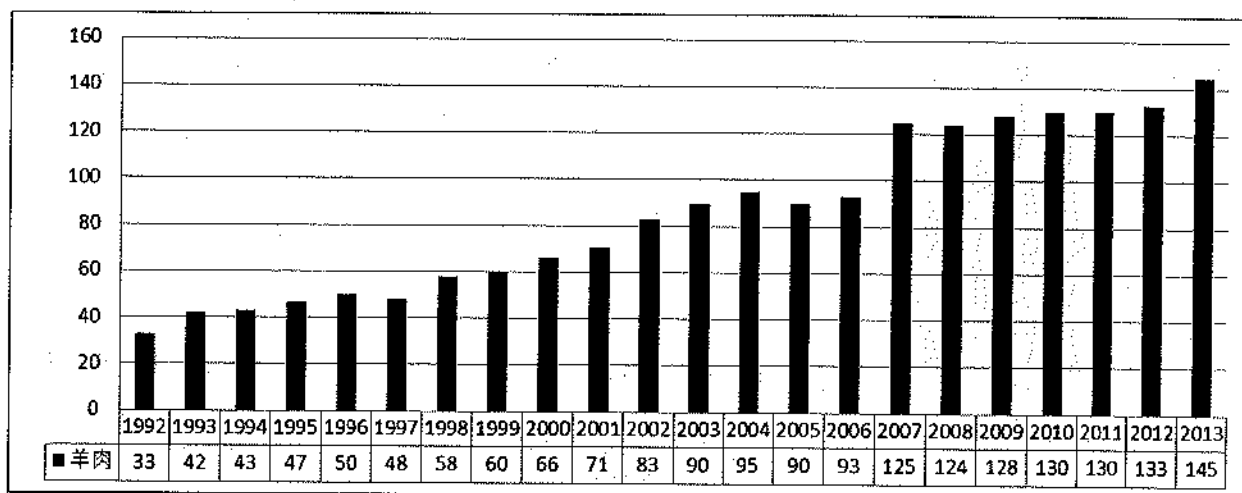
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



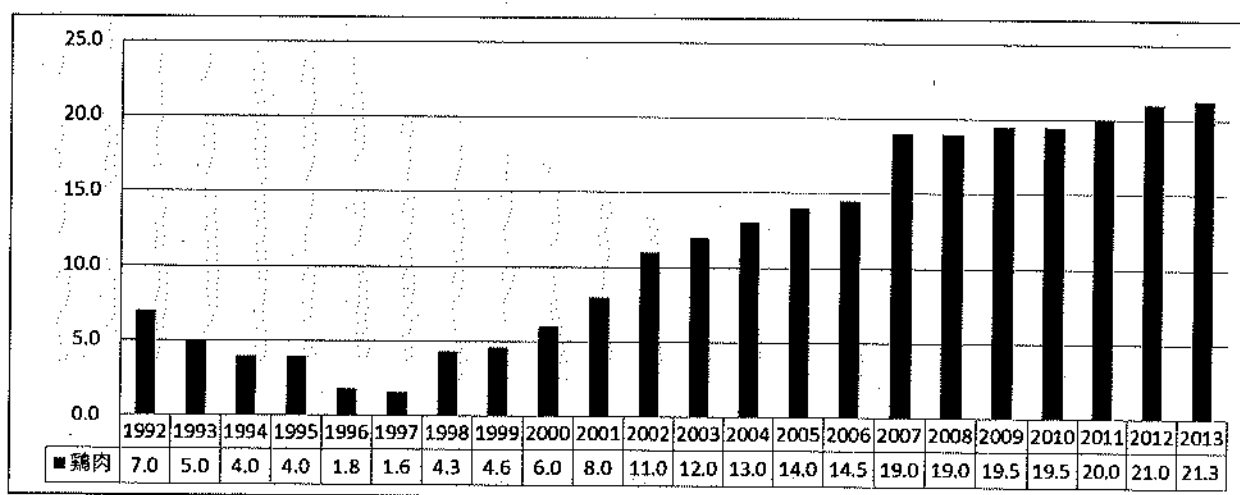
*1998 年以前はデータなし

テンサイの生産量の推移(万トン)

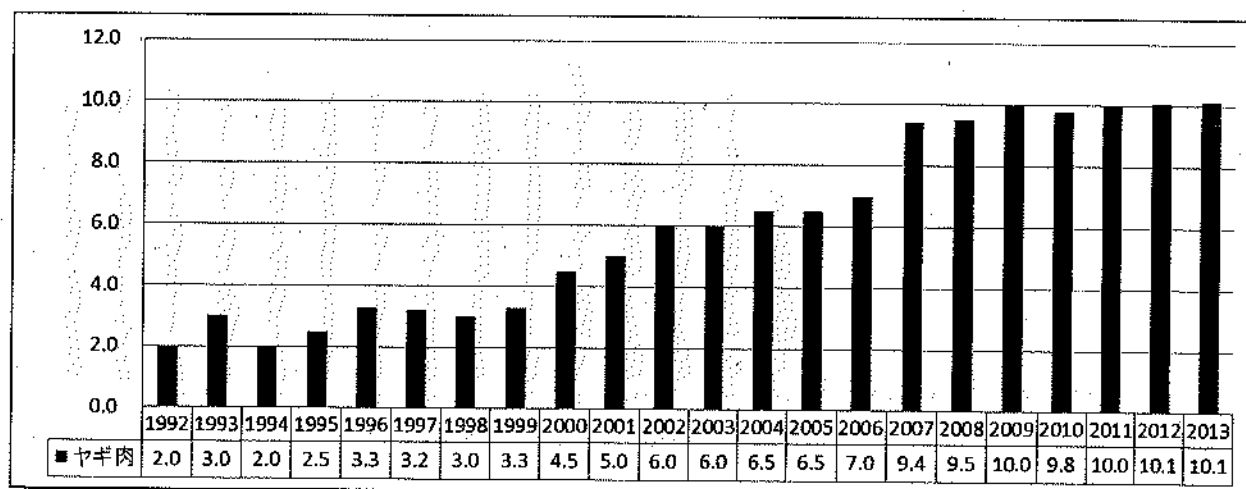
※以上 5 点、出所：FAOSTAT



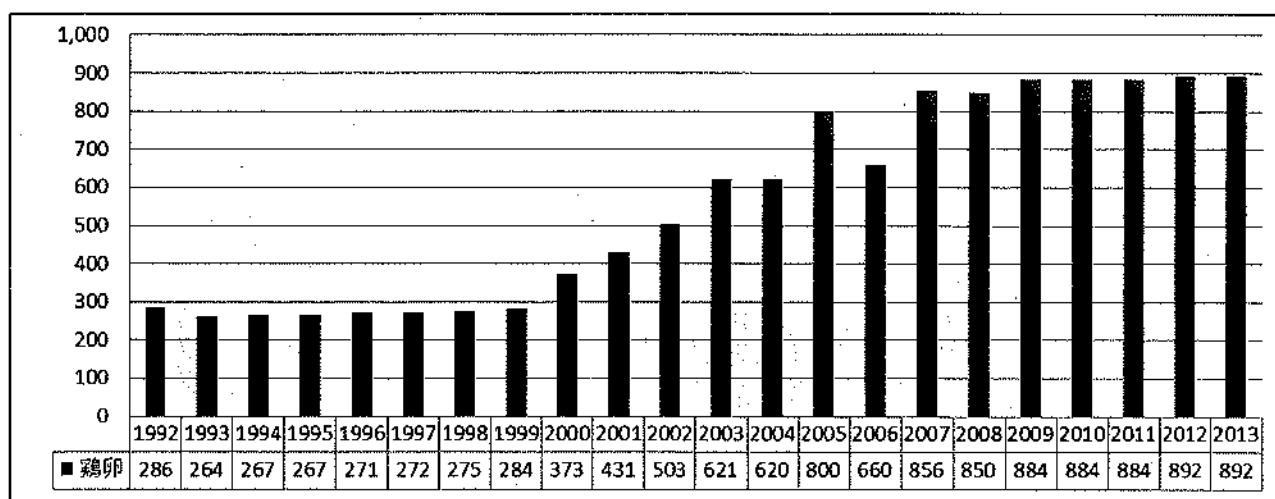
羊肉の生産量の推移(千トン)



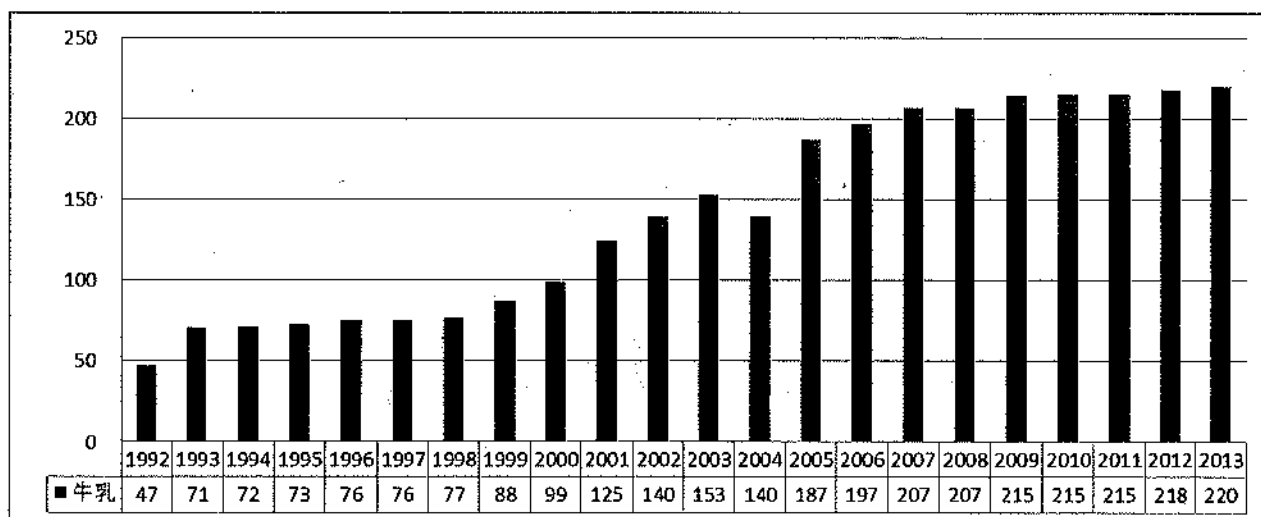
鶏肉の生産量の推移(千トン)



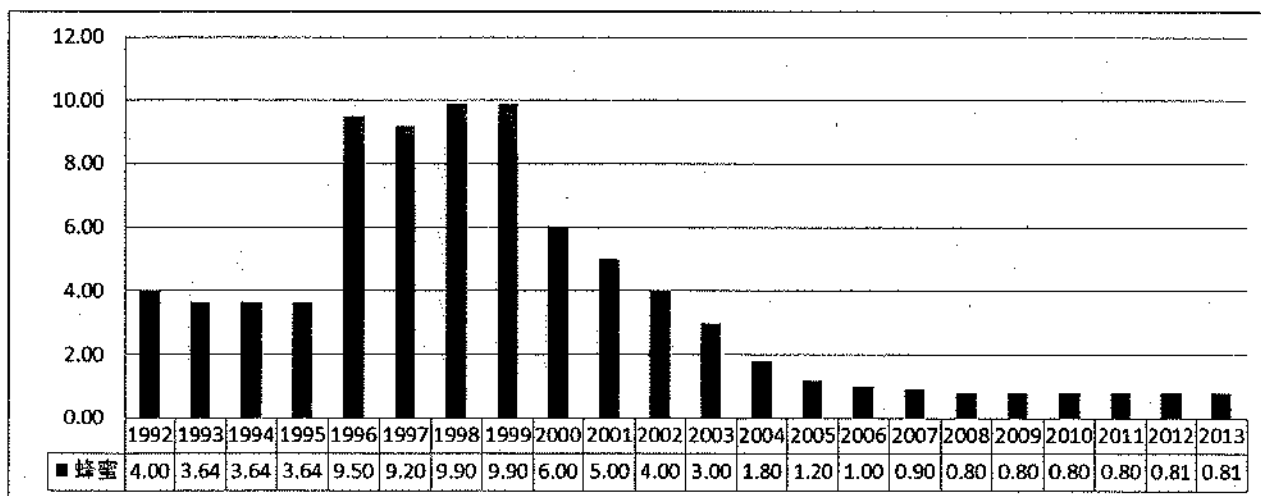
ヤギ肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)

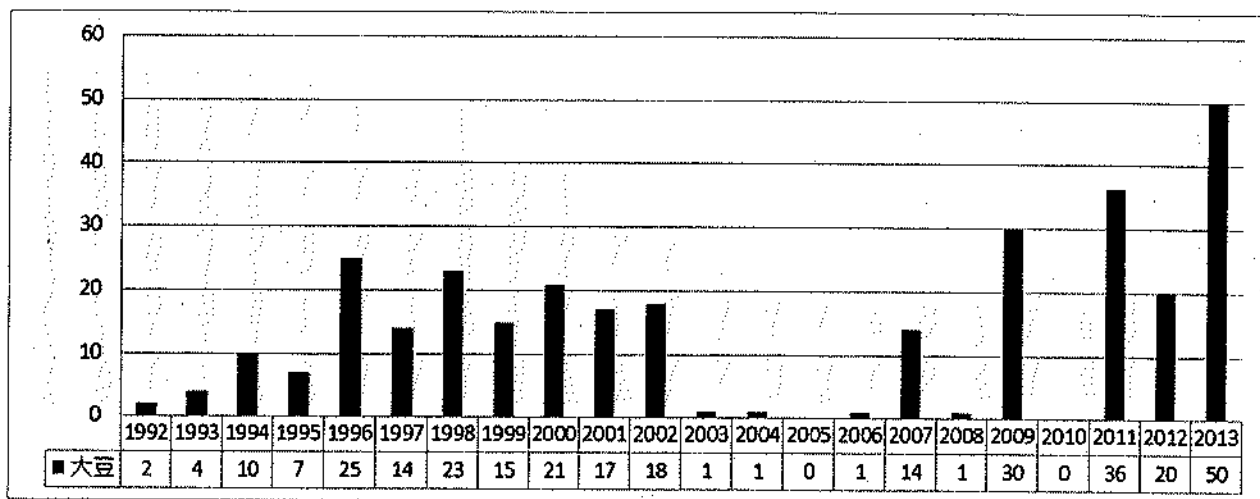


牛乳の生産量の推移(万トン)

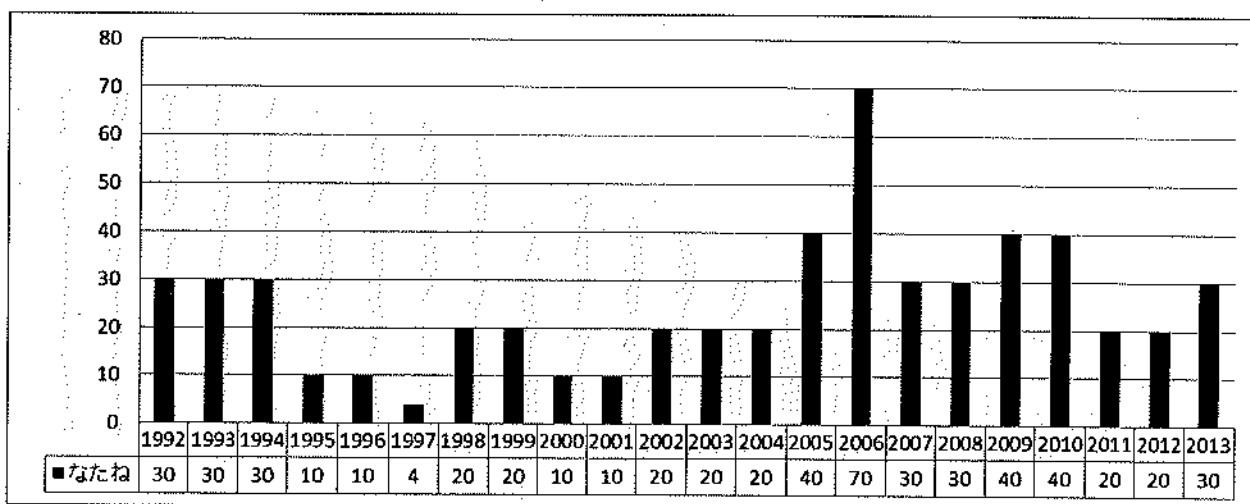


蜂蜜の生産量の推移(千トン)

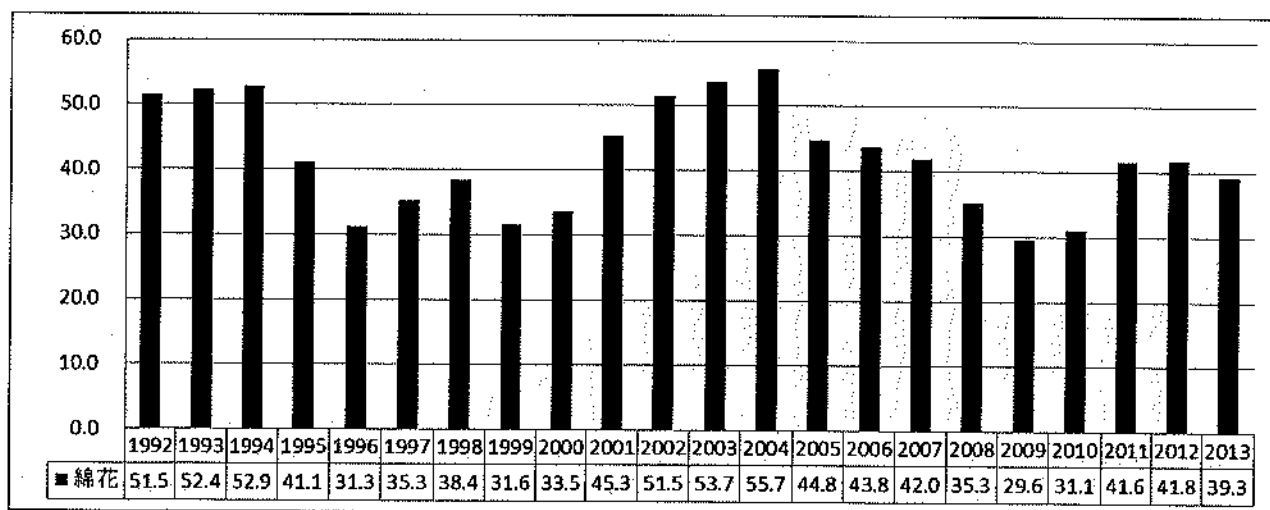
※以上 8 点、出所：FAOSTAT



大豆の生産量の推移(トン)



なたねの生産量の推移(トン)

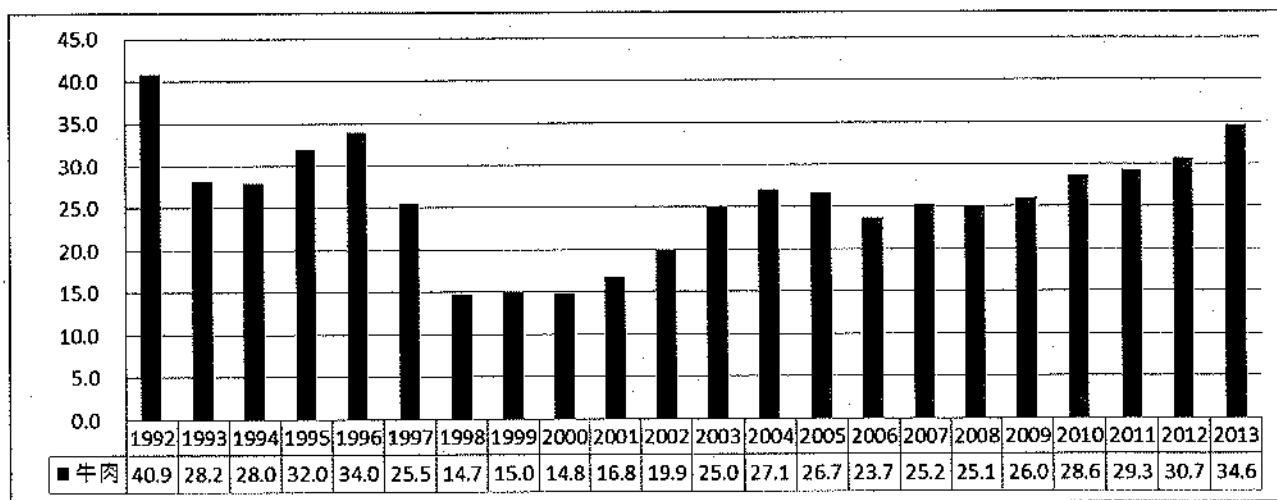


綿花の生産量の推移(万トン)

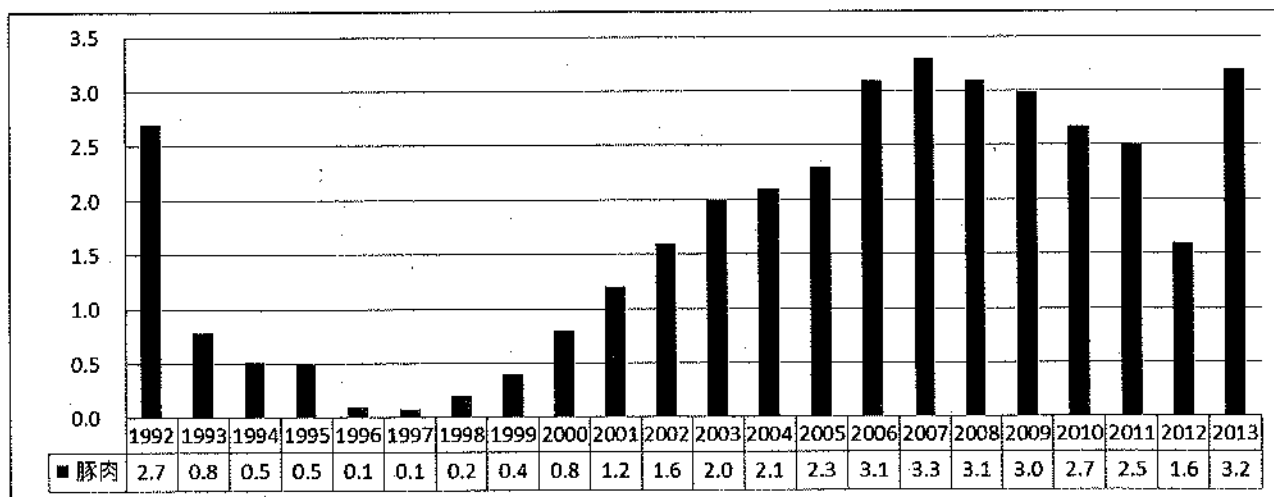
※以上 8 点、出所：FAOSTAT

②主要畜産物の生産動向

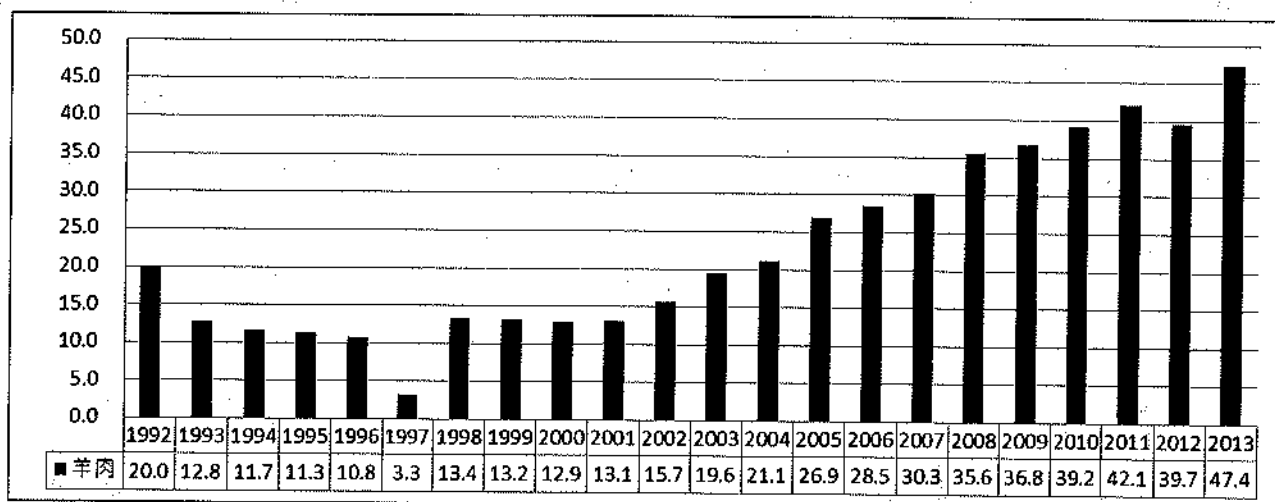
畜産は全農業生産の30%超の割合を占め、食肉、牛乳の生産、羊や豚、鶏の飼育など活発な生産活動を行っている。近年、穀物生産へのシフトにより、飼料の生産が減少したため、それに伴い長いスパンでみると、牛肉のように生産量が減少傾向のものもある。しかし2013年の牛の飼育頭数は204万5,000頭と、前年と比べて1.5%増であり、食肉の生産量が7.5%増、卵の生産量が11.8%増と、全体的に微増であるが上昇を示している。また農村地域では、零細農家が1家族で1～3頭の牛のほか、羊や鶏などを育てている。



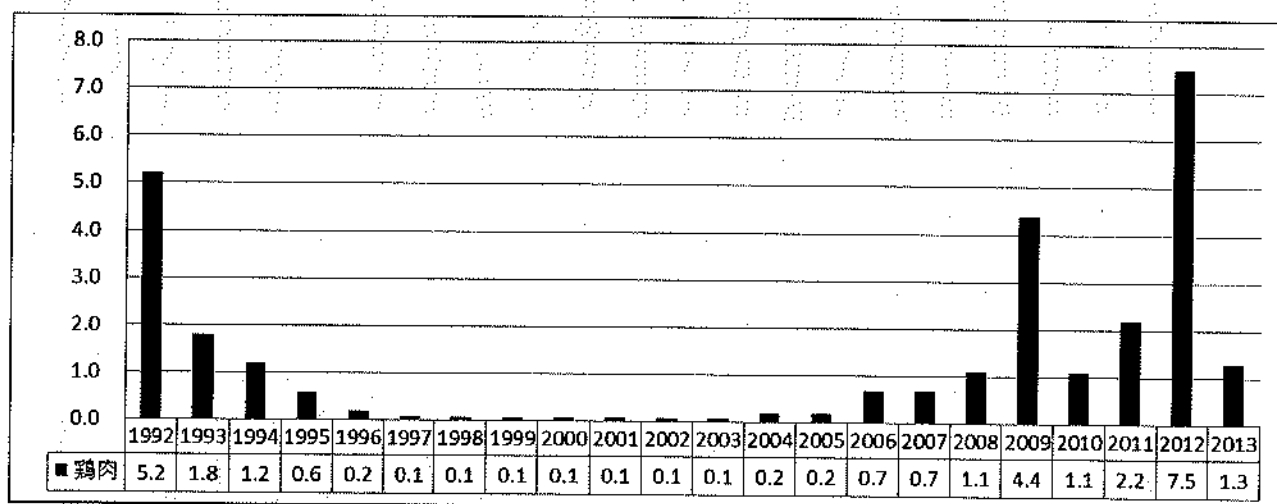
牛肉の生産量の推移(千トン)



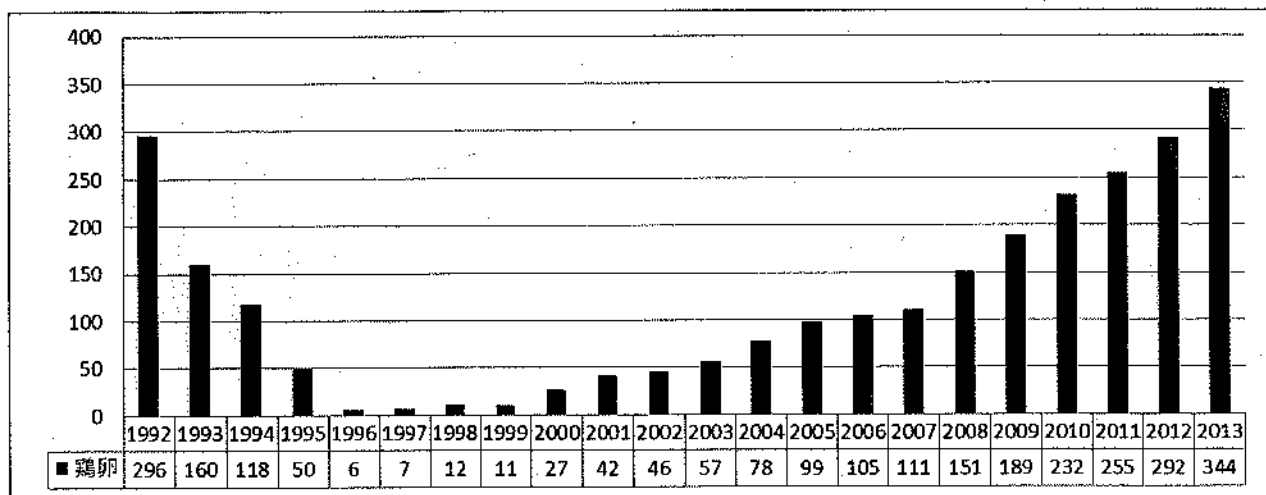
豚肉の生産量の推移(千トン)



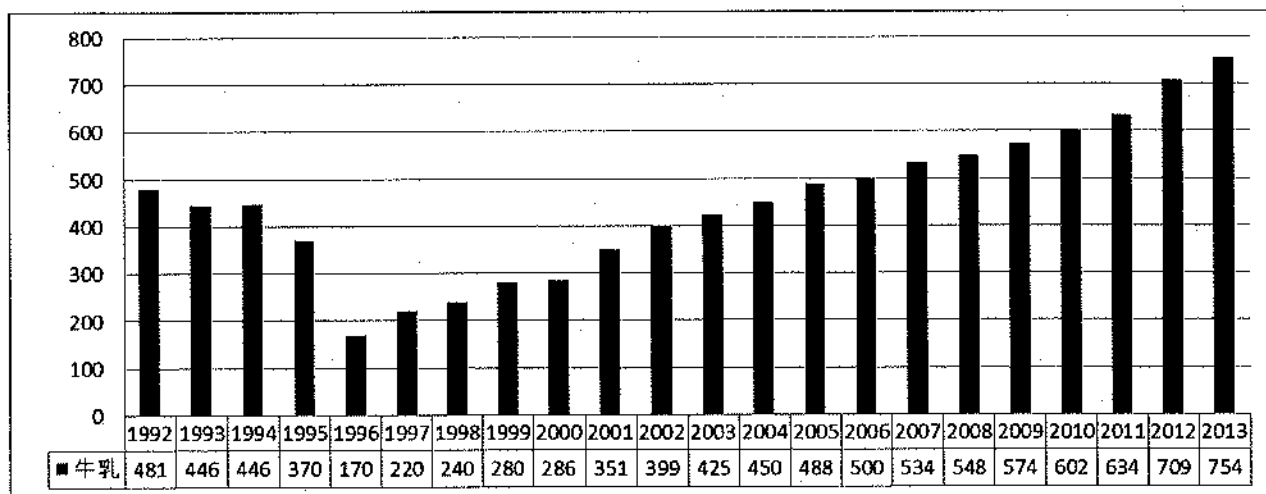
羊肉の生産量の推移(千トン)



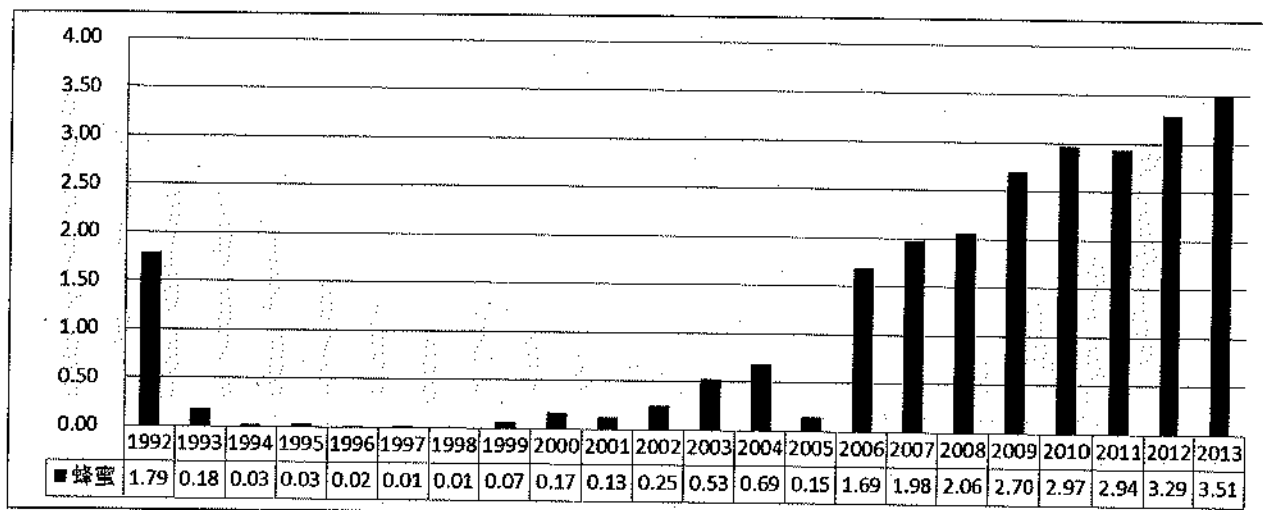
鶏肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)



蜂蜜の生産量の推移(千トン)

※以上7点、出所：FAOSTAT

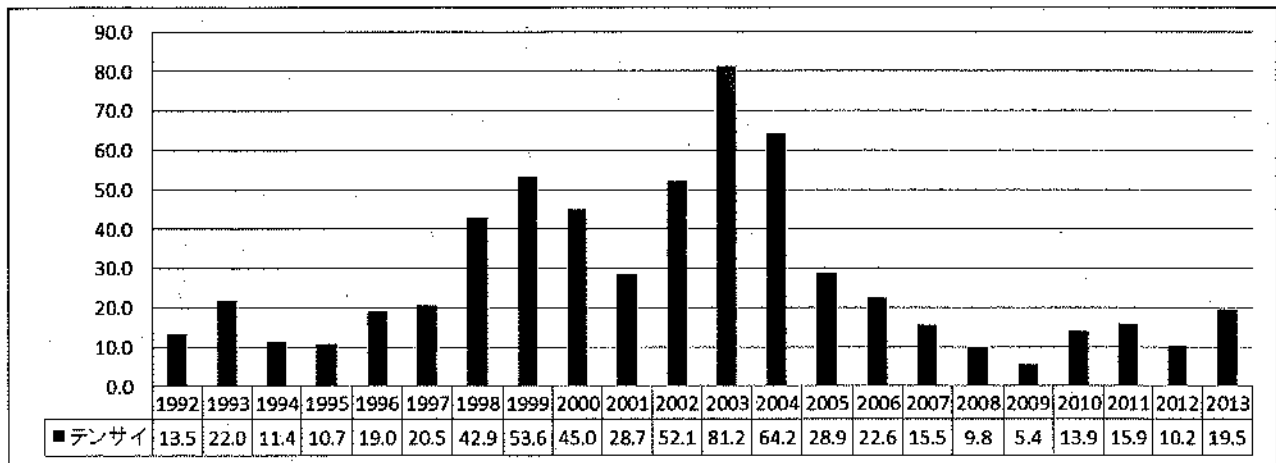
5) 農業経営・生産組織の動向

タジキスタンの農業は、以下の4つの形態に分類できる。それぞれ2011年の農場数を記した。

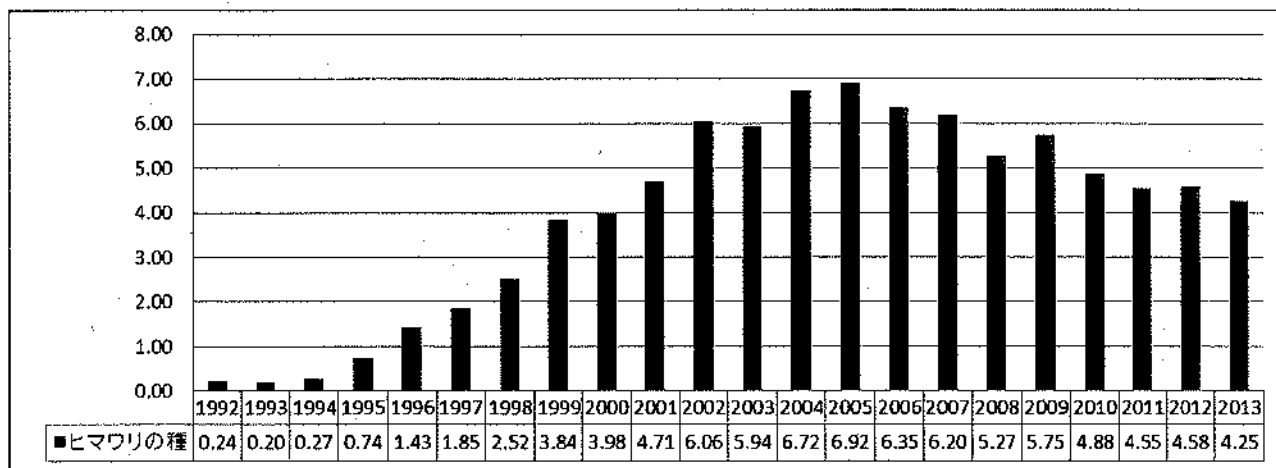
- ・デフカン農場 : 複数の家族が集まって構成された農場。農場数約5万4,000
- ・生産農業組合 : 農場数357
- ・コルホーズ、ソフホーズ : 農場数コルホーズ1、ソフホーズ5
- ・農業企業 : 農場数7
- ・小規模零細農家 : 1ha未満の農場をもつ農家。農場数不明

デフカン農場とは1人で経営するものから100家族以上が集まったものまで規模はさまざまである。2011年時点では、デフカン農場は5万4,000農場存在し、農業の担い手の大半を占めている。デフカン農場のうち80%は2～20haの規模である。¹⁷

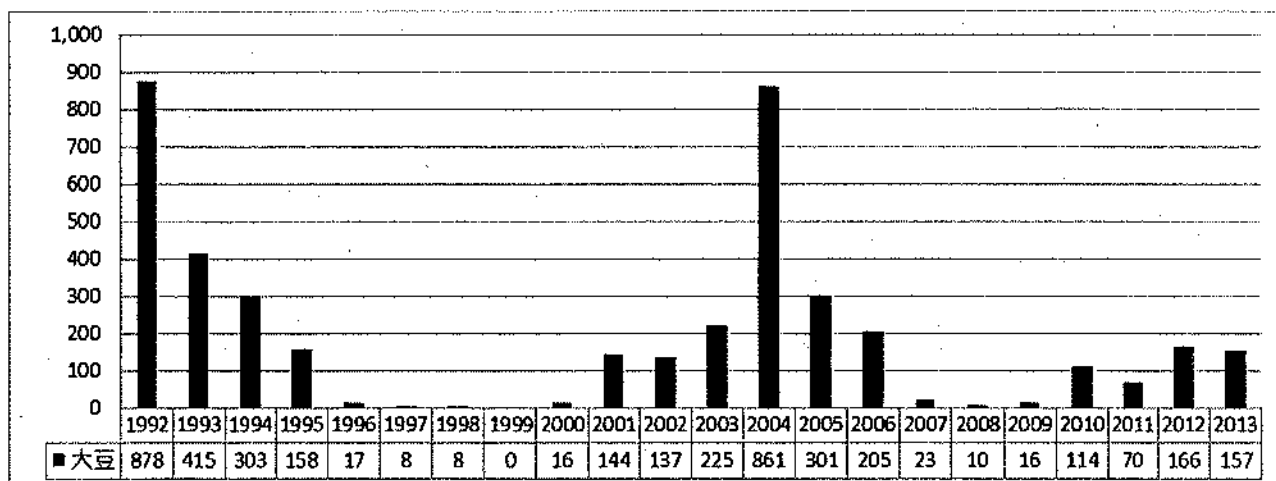
¹⁷ 参考資料：「タジキスタン農業の再編と農民組織の役割」（北海道大学 中村正士、坂下明彦）
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/49135/3/67_6.pdf



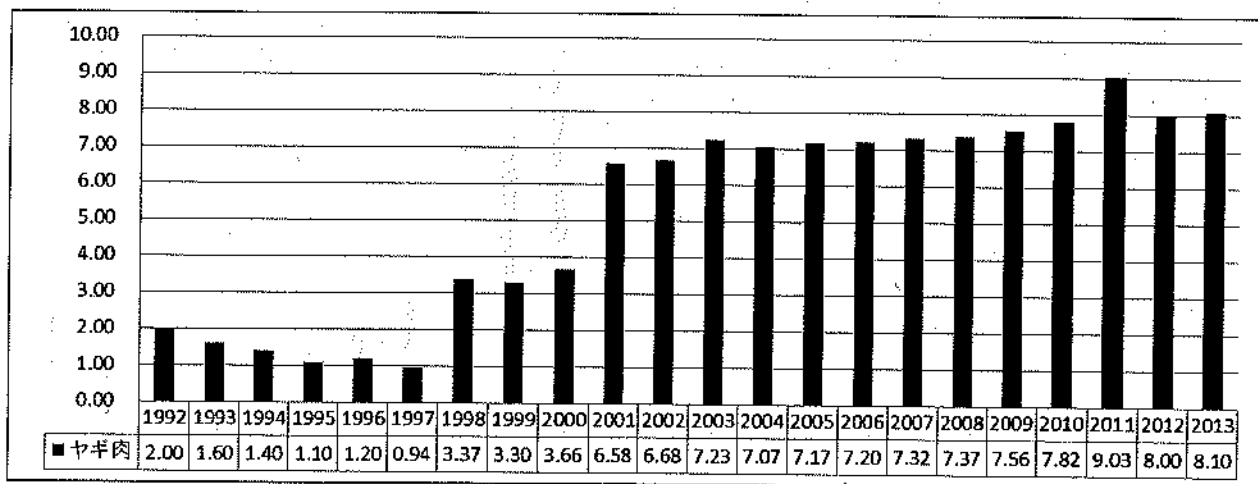
テンサイの生産量の推移(万トン)



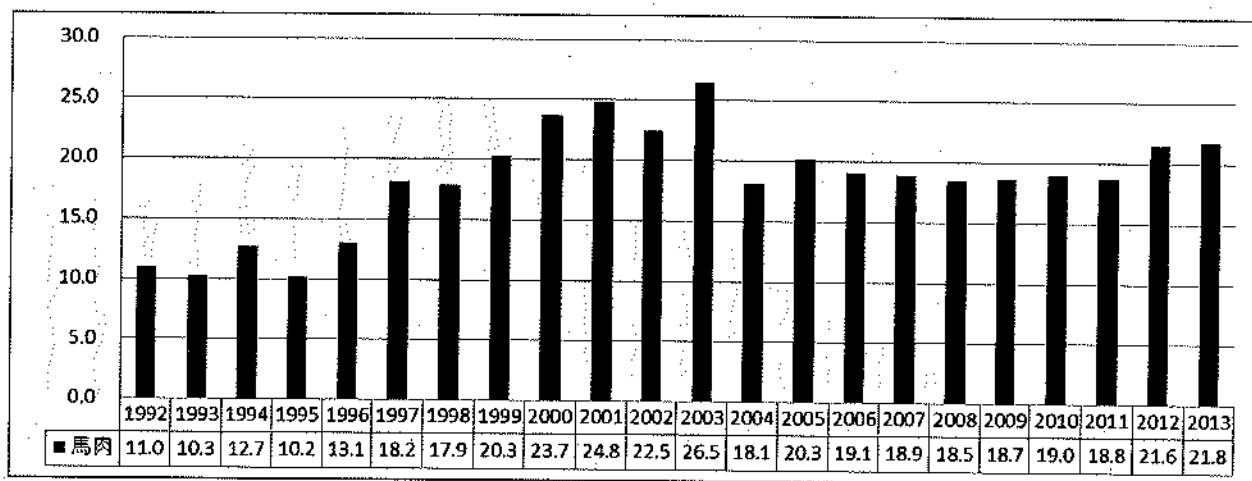
ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



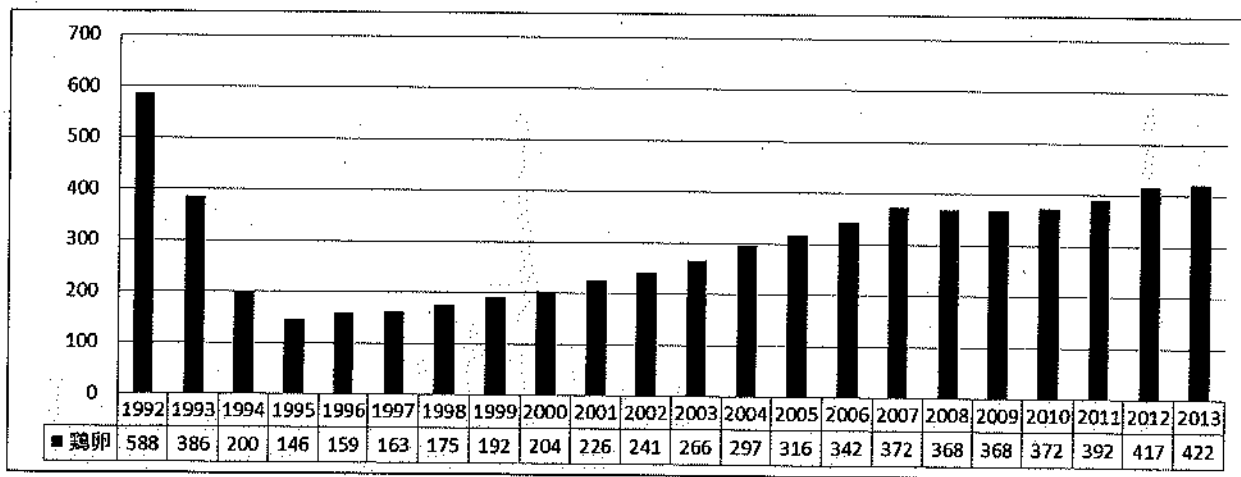
大豆生産量の推移(トン)



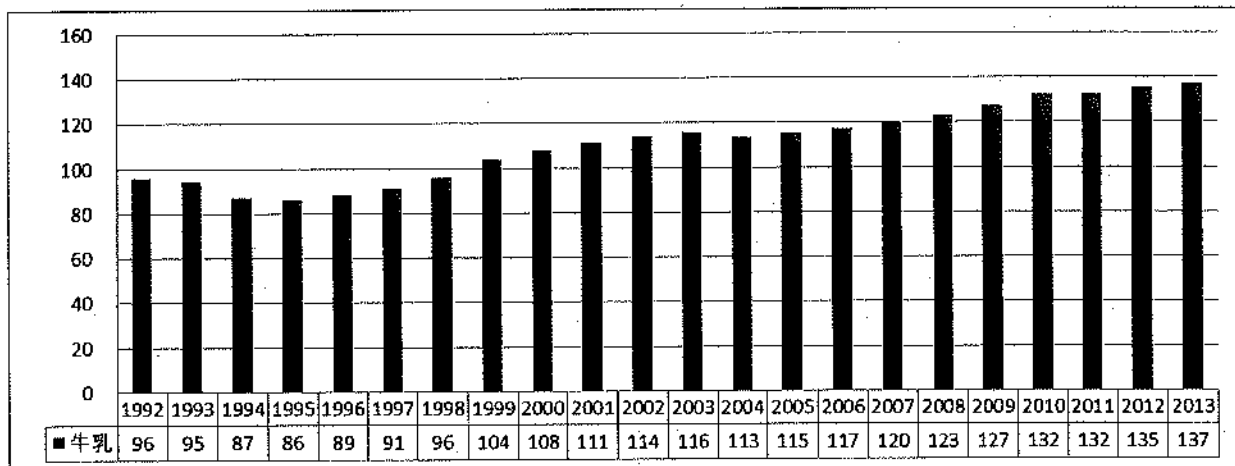
ヤギ肉の生産量の推移(千トン)



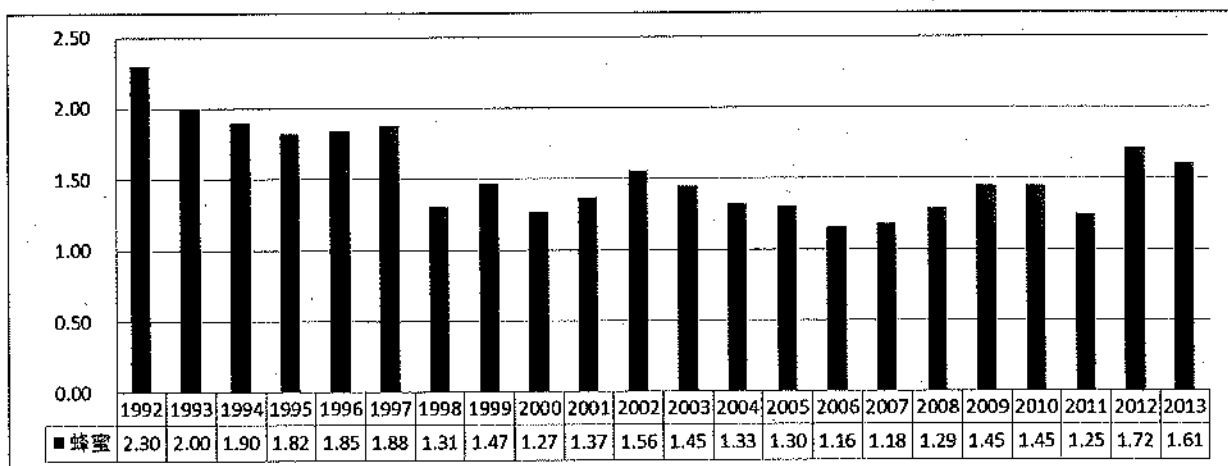
馬肉の生産量の推移(千トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(万トン)



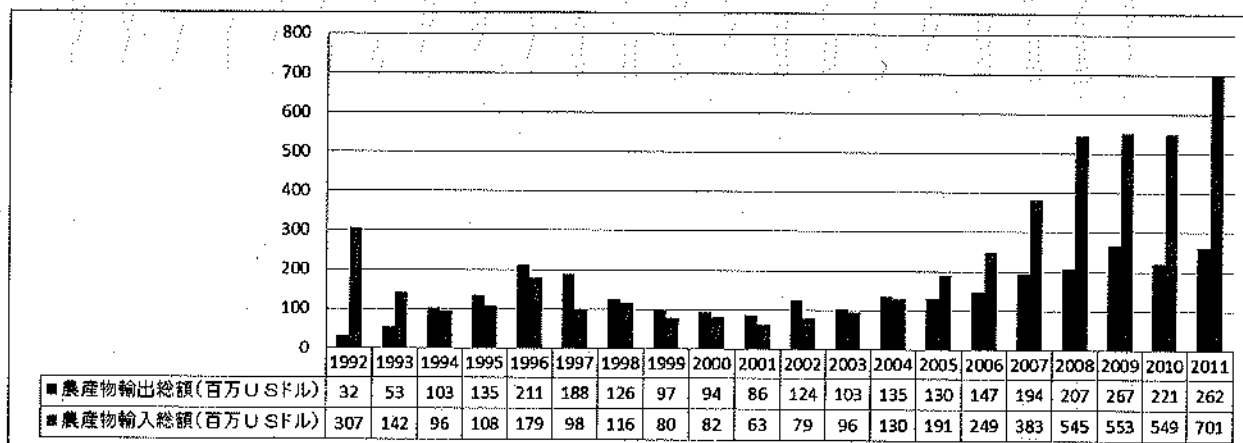
蜂蜜の生産量の推移(千トン)

※以上 9 点、出所：FAOSTAT

4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

ソ連崩壊後、キルギスの農産物の輸出は1996年をピークに減少に転じ、2003年以降また増加傾向となった。1994年から2004年まで輸出が輸入を上回っていたが、2005年以降輸入が大幅に伸び、2011年の輸入額は約7億108万米ドル、対前年比27.7%増であった。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

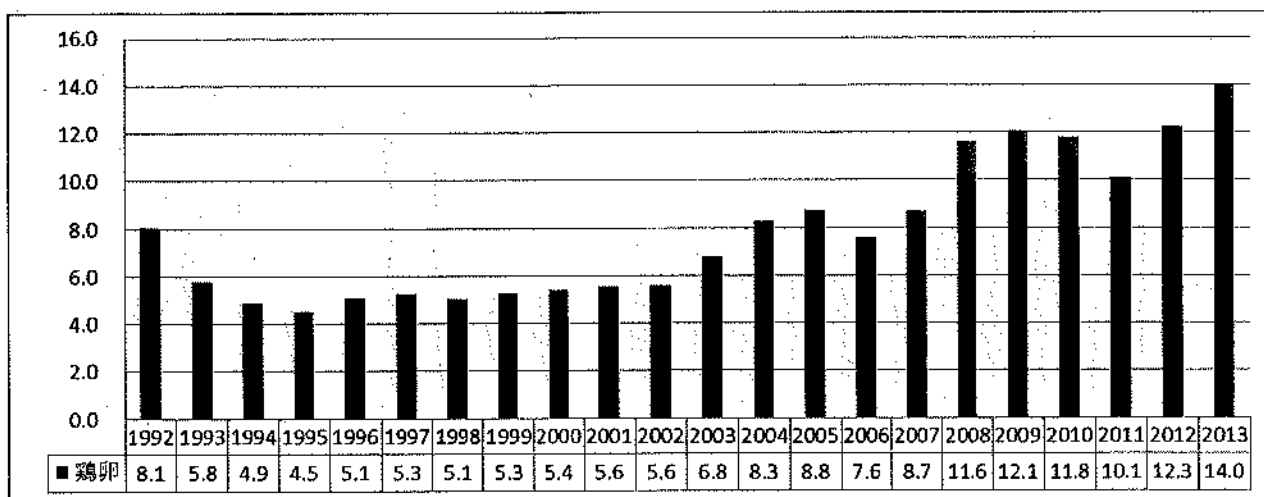
(2) 輸出

穀物、野菜などの日常生活に欠かせない食料の多くを輸入に頼っているため、国内生産量の大部分はキルギス国内の消費にまわされている。そのため、これらの品目の輸出量は限られ、例えば、2008年はジャガイモが生産量全体の26.2%、野菜が18.8%と低い。輸出が好調なのは、自国の気候に適した作物に限られている。輸出相手国はこれまでロシアとカザフスタンが中心だったが、近年ではアゼルバイジャン、タジキスタン、ウクライナ、ドイツ、フランス、トルコへの輸出も増加している。

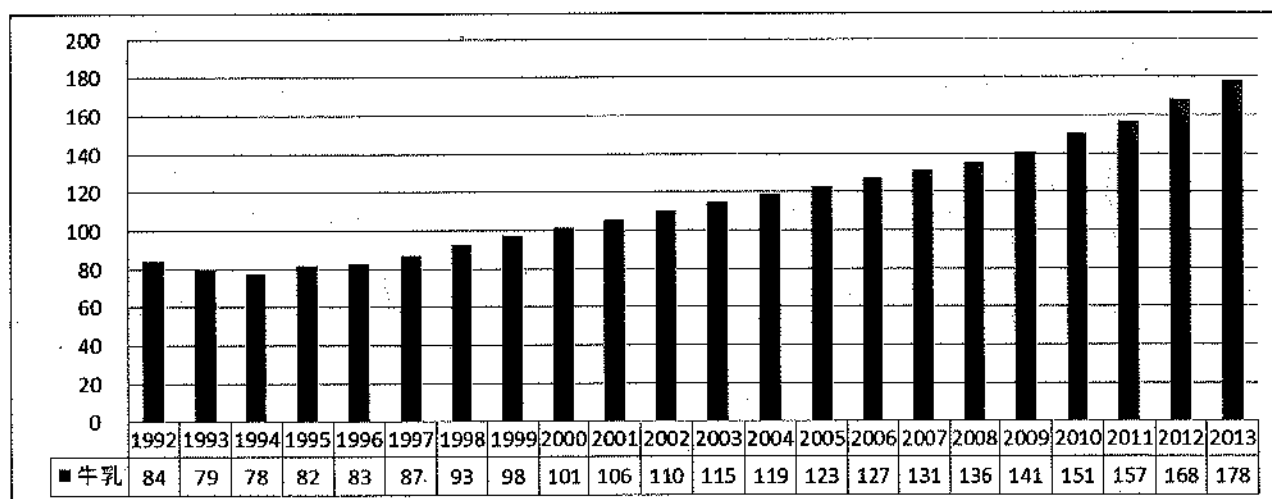
輸出農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
豆	52	19.8
木綿	31	11.9
ジャガイモ	19	7.1
たばこ	13	5.0
ミルク(全生乳)	10	4.0
上位5品目計	125	47.8
上記以外農産物計	137	52.2
農産物総額	262	100.0

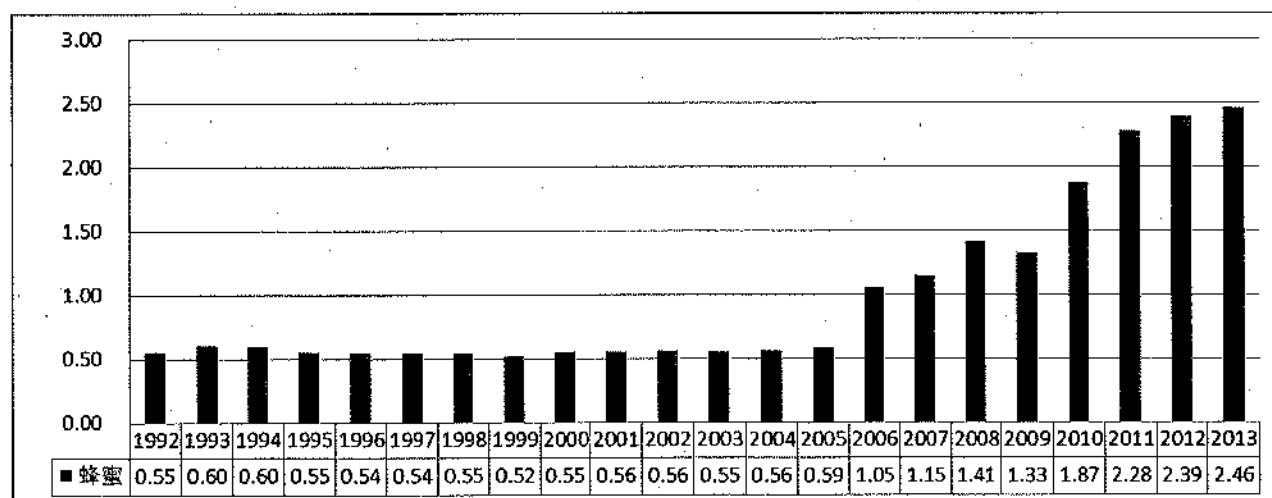
出所：FAOSTAT



鶏卵の生産量の推移(億個)

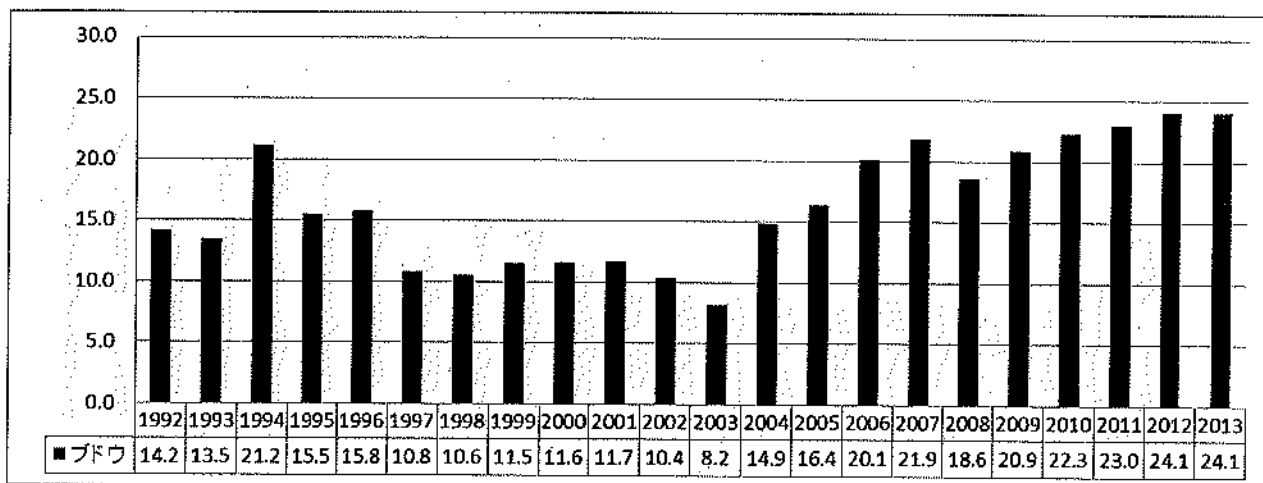


牛乳の生産量の推移(万トン)

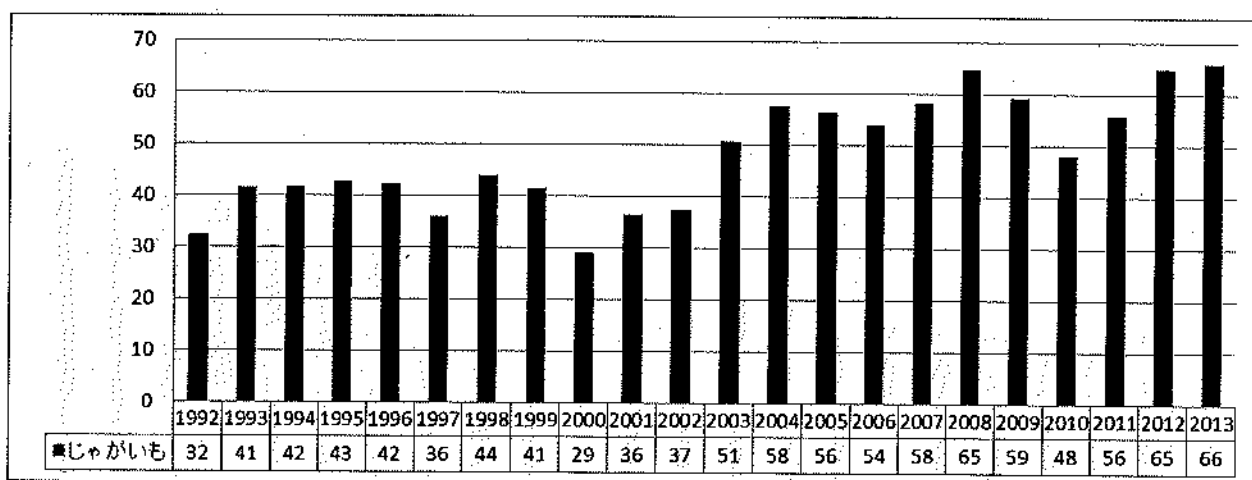


蜂蜜の生産量の推移(千トン)

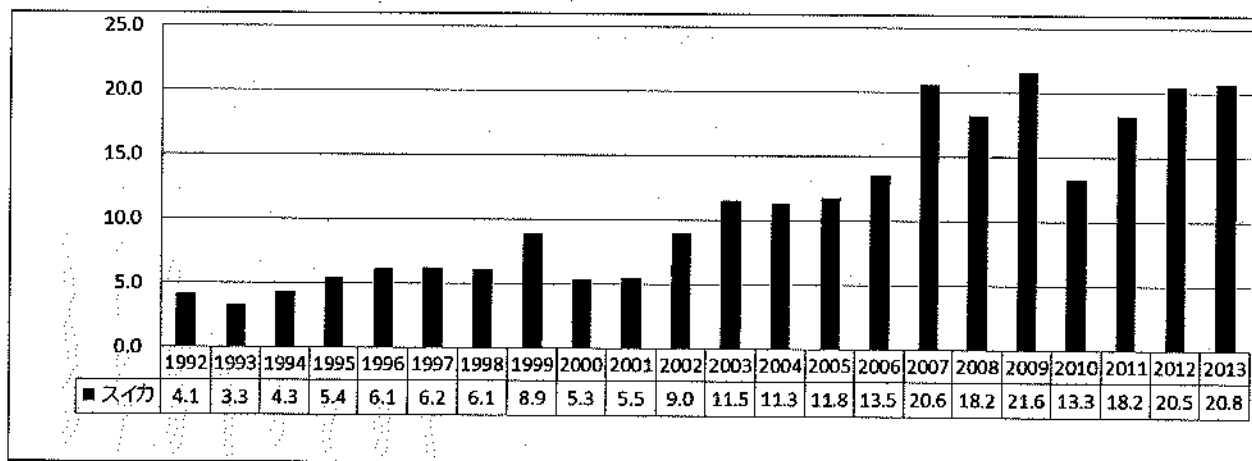
※以上 8 点、出所：FAOSTAT



ブドウの生産量の推移(万トン)

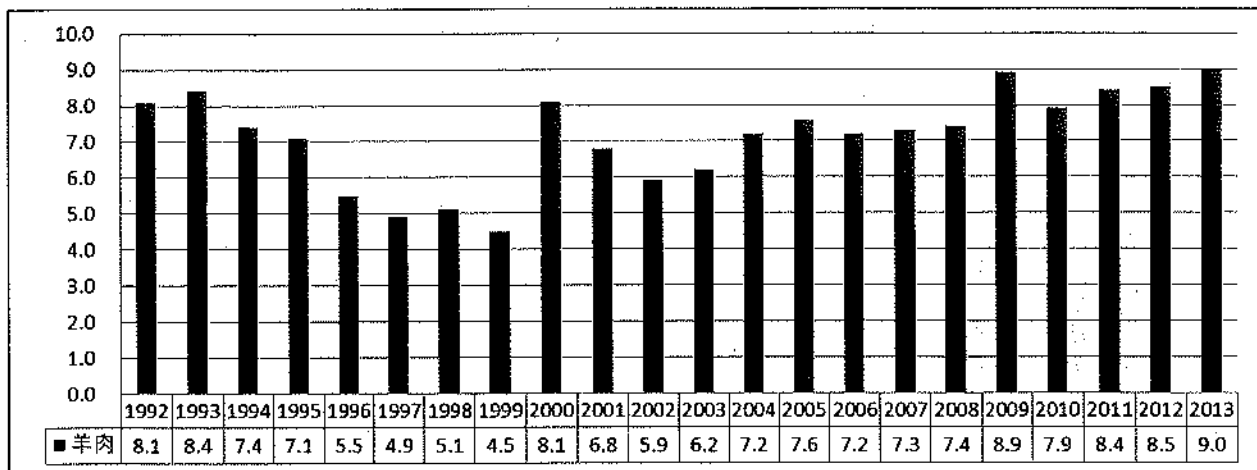


ジャガイモの生産量の推移(万トン)

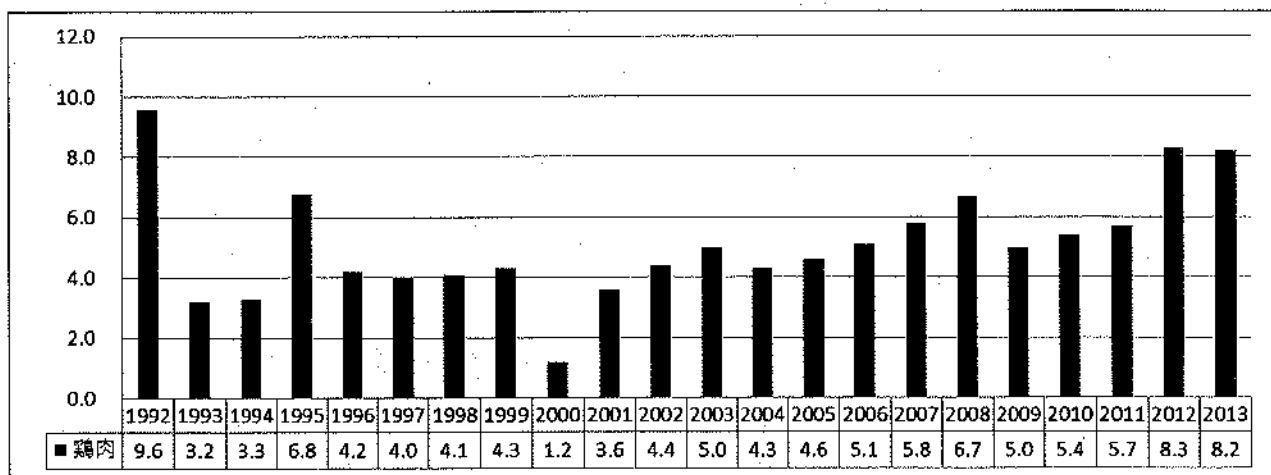


スイカの生産量の推移(万トン)

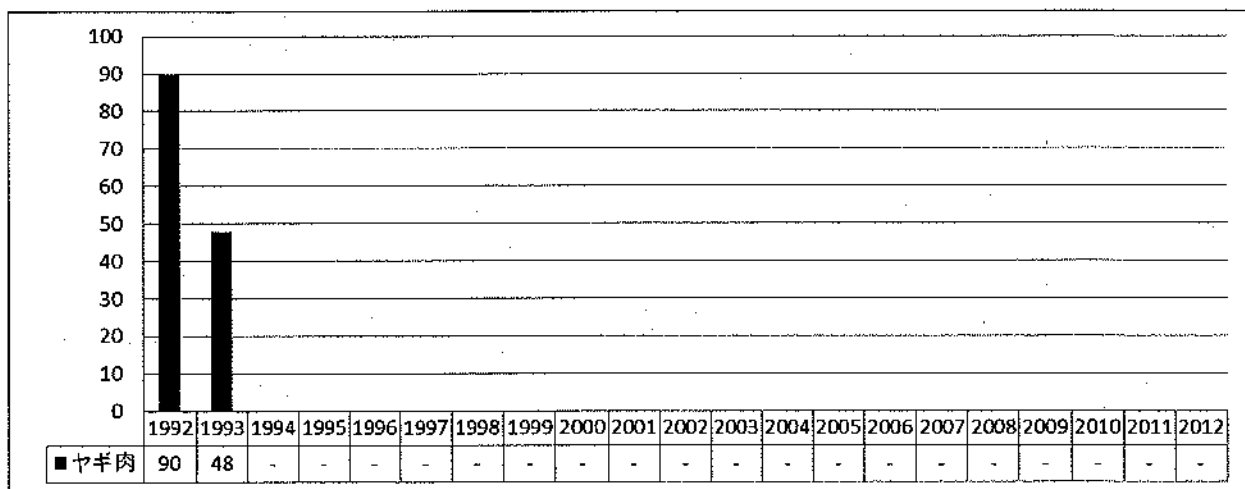
※以上5点、出所：FAOSTAT



羊肉の生産量の推移(千トン)

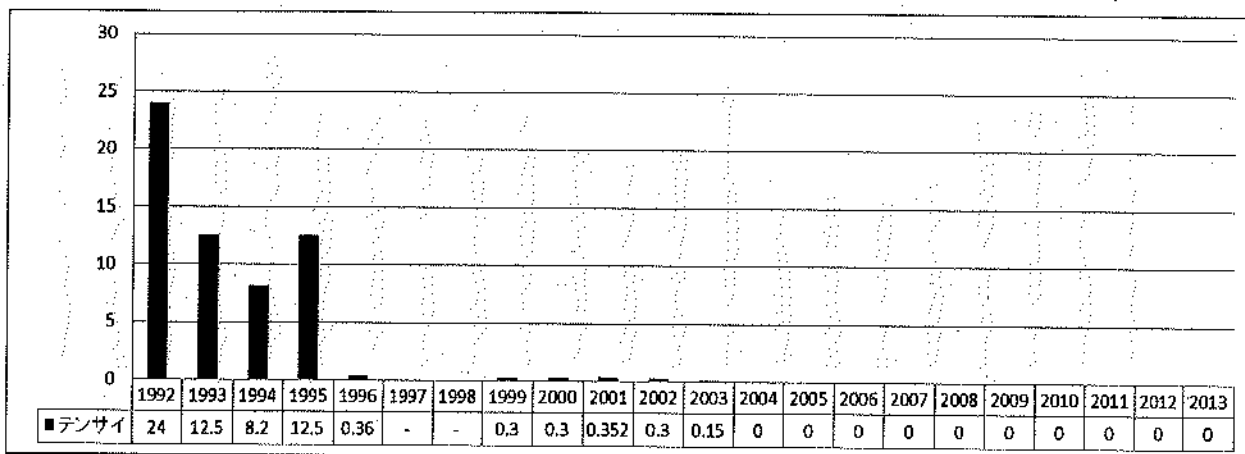


鶏肉の生産量の推移(千トン)



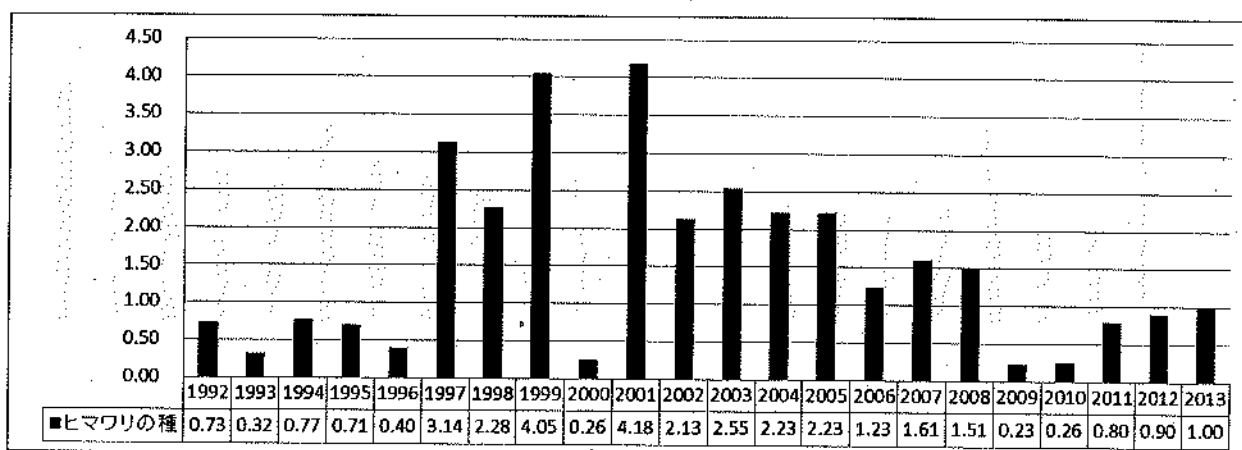
* 1994 年以降はデータなし

ヤギ肉の生産量の推移(トン)

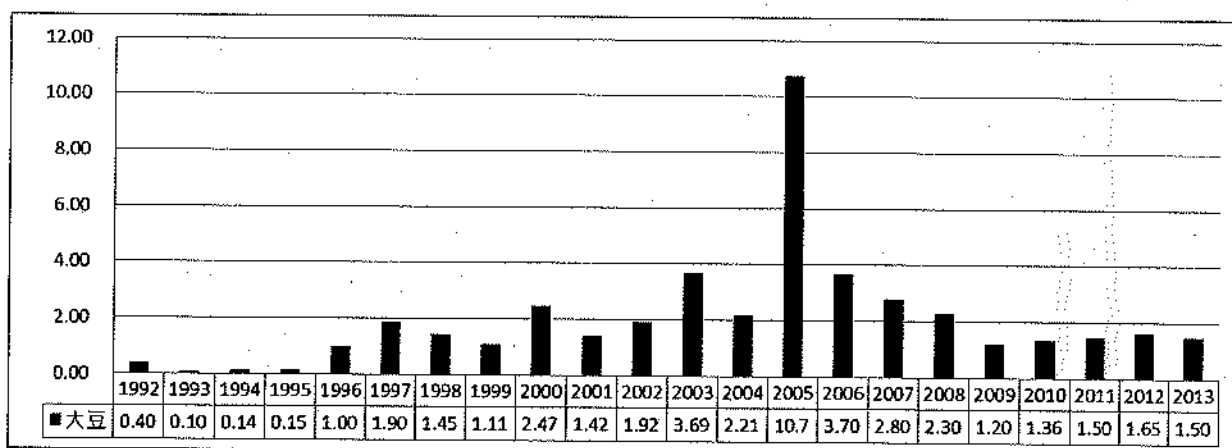


*1997 年、1998 年はデータなし

テンサイの生産量の推移(千トン)

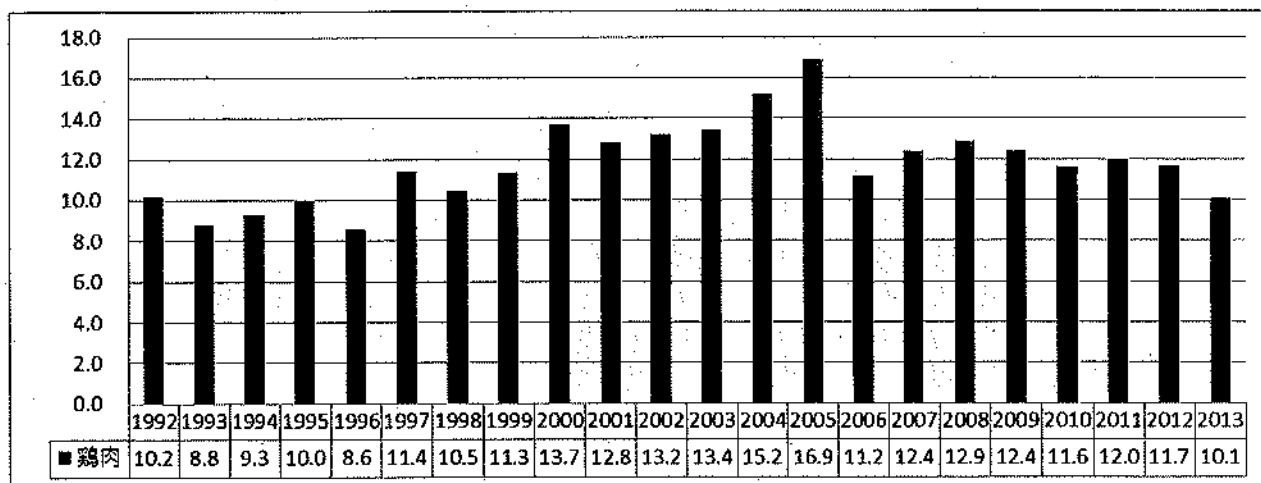


ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)

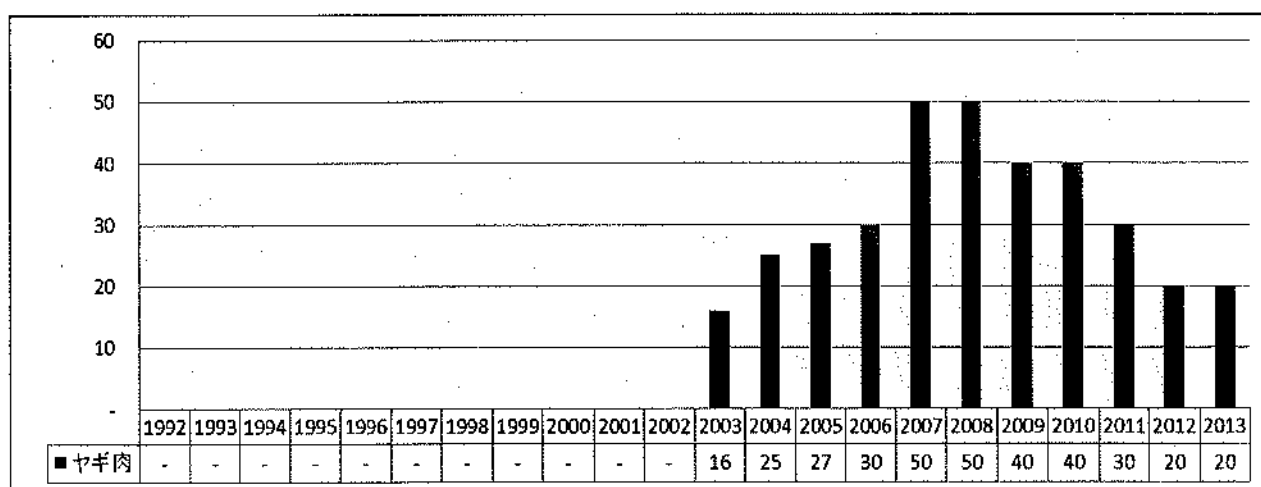


大豆の生産量の推移(千トン)

※以上 6 点、出所：FAOSTAT

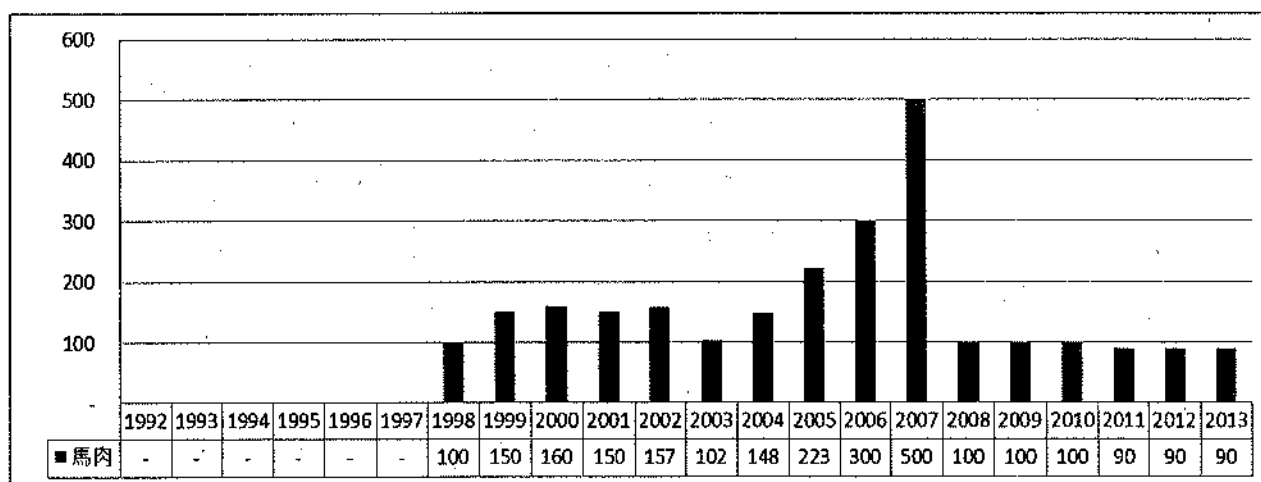


鶏肉の生産量の推移(千トン)



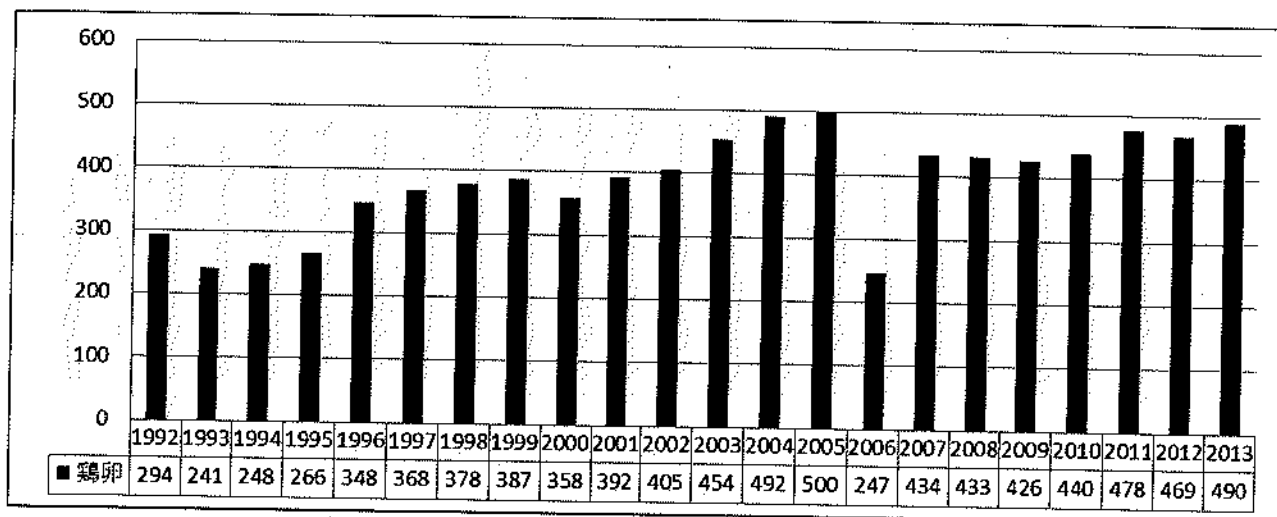
*2002 年以前はデータなし

ヤギ肉の生産量の推移(トン)

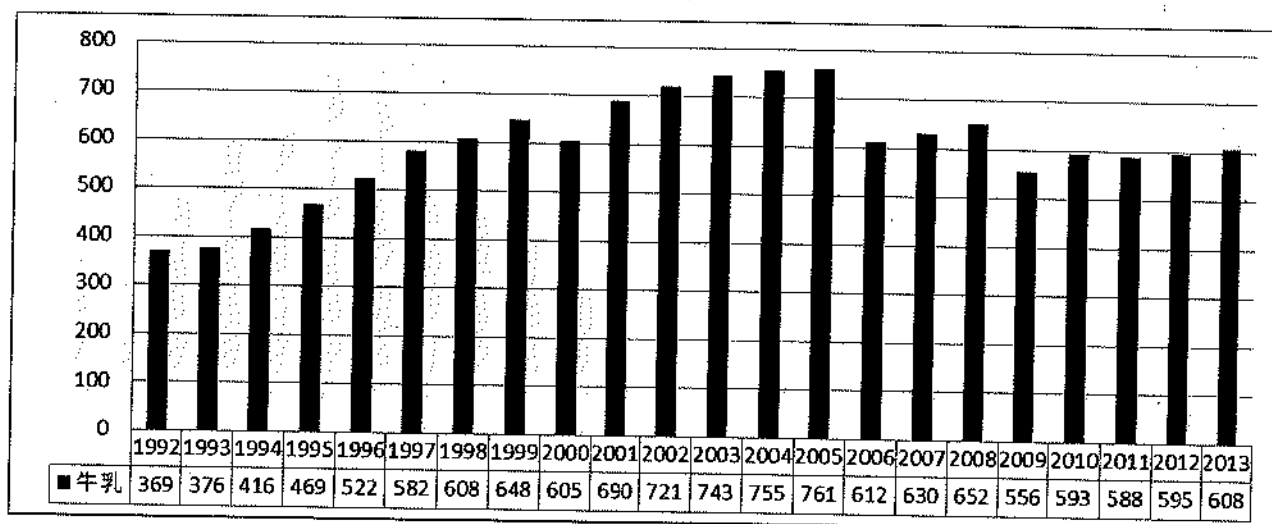


*1997 年以前はデータなし

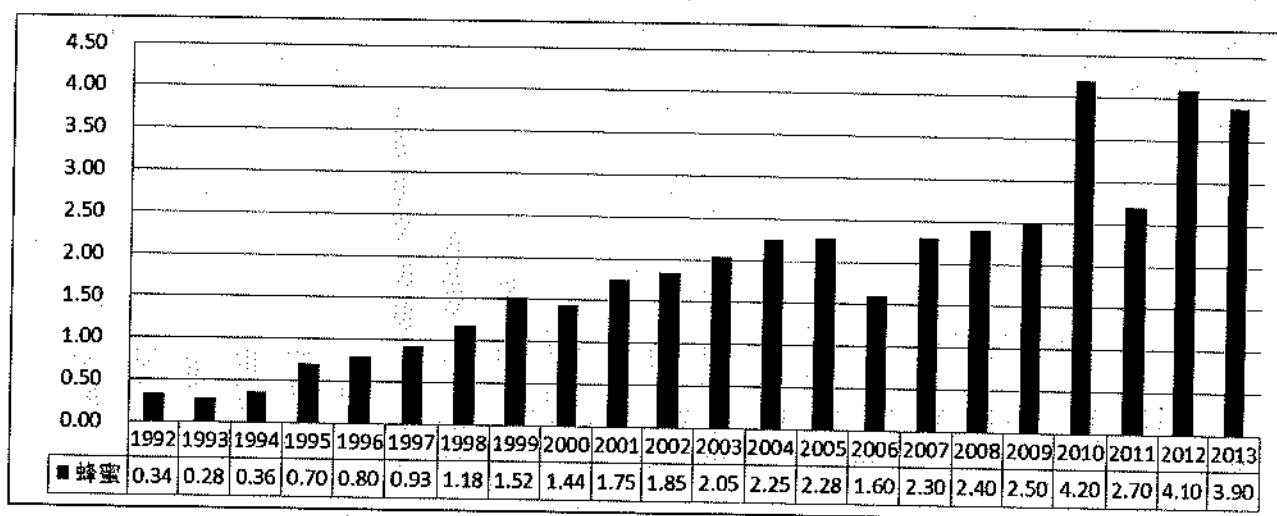
馬肉の生産量の推移(トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)



蜂蜜の生産量の推移(千トン)

※以上 8 点、出所：FAOSTAT